

特230

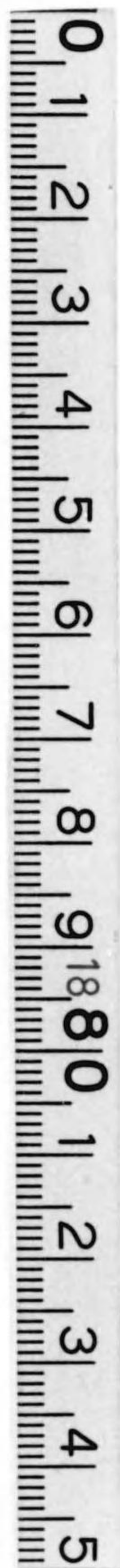
808

北海道青年
農業叢書
第五編

北海道農業教育研究會編

農業の多角的經營

淳文書院發行



始



特230
808

北海道青年年

農業叢書

第五編



農業の多角的經營

北海道農業教育研究會編

淳文書院發行



序

本叢書は本道農家青年子弟が自己の生業たる農業を営む傍、之に關する知識を廣め、技術、經營の向上進歩を來たさしめんが爲、晴耕雨讀の資として企圖されしものなり。

小冊子、元より專業者を誘導裨益するが如きは望外にして、専ら育英の爲に編めるものなれば、努めて平易なるを旨こしたり、然れども記述の内容に至りては、それ〴〵本道農事指導の權威者が嚴密なる指導校訂を経、若しくはその執筆になるを以て、極めて正確有益なるは言を俟たず。

加ふるに本道の農業は各方面に於て府縣のそれとは著るしく趣きを異にするを以て、各編悉く本道農業の特殊性に立脚し、その實情に即することに努めたり、之本叢書存立の基礎にして、又世の要望に對する所以たり。

願はくは識者の援助を得て、本叢書が編を重ね、本道農家青年諸子の研鑽に裨益するところありしめんことを。聊か記して本叢書刊行の趣旨をなす。

昭和九年二月

淳文書院主人敬白

目次

農業の多角的經營とは何ぞや……………一
多角的經營の唱道されるわけ……………三
資本主義の農業に對する影響……………七
自給主義への復歸……………一四
生産費の低下と多角的經營……………一九
以上の要約……………二三
多角的經營の長所……………二四
第一 多角的經營の保險作用……………二四
 1 自然的事情に對する保險作用……………二四
 2 農産物價格變動に對する保險作用……………二五
 3 自給的色彩加味による保險作用……………二七

第二 生産要素の完全なる利用.....	一九
1 勞力の合理的利用.....	一九
イ、勞力に於ける自給性の確立.....	二〇
ロ、自家勞力の完全燃焼.....	二一
2 土地資本利用の集約化.....	二五
多角的經營の缺點.....	三六
第一 技術上の不利益.....	三六
第二 勞働能率の低下.....	四〇
第三 個々生産物の寡少.....	四三
多角的經營上注意すべき諸點.....	四三
第一 組織上注意すべき事柄.....	四三
第二 經營上注意すべき事柄.....	四四
第三 對外的合理化上注意すべき事柄.....	四六
副業に就いての注意.....	五〇

一、副業選擇上の注意.....	五〇
二、副業を行ふ上の心得.....	五三
三、副業實施上の改善點.....	五四
多角的經營に成功せる人々の事例.....	五七
一、凶作を尻目に朗かな多角式農業.....	五七
二、洋菜を主とした多角農業.....	五九
三、三快主義の徹底.....	六三
四、市街地農家の例.....	六六
五、分立經濟の記帳.....	七一
六、精力主義の小作農.....	七三

農業の多角的經營

北海道農業教育研究會編

農業の多角化とは何ぞや

農業經營の多角化とか複雑化とかいふ事が叫ばれてゐる。そして今日の様な農業恐慌時代—即ち農業では食へないといふ窮境を救ふための有力な方法の一つとして、大に一般から推奨されてゐる。それならその農業の多角化とか、農業の複雑化とか言ふのはどういふ事であるか、先づその言葉から研究して見よう。多角化といふ言葉も、複雑化といふ言葉も、大體同じ意味に使はれてゐるが之等は農業の單純化とか單一組織とかいふ言葉と相對するものである。農業の單一組織といふのは

農業を行ふのに耕地の殆んど全部を水田にするとか、或は軒先まで薄荷を植ゑつけてしまふとか、即ち全面積を一つの作物で埋めてしまふやり方である。今日かういふ組織を採つてゐる所は、空知上川の水田地方とか、十勝の豆類とか、北見の薄荷上川の除蟲菊等々、本道に於てもその例が少くない。たとへ此の様な極端な經營でなくとも、大部分を三四の穀菽類で埋め、之を自家經營の主体とするといふやり方は矢張り單一組織（單式經營）をいつてよいので、かういふやり方の農家は本道に於ても其の数が非常に多いのである。

農業の多角的經營といふのは之と反對で、許す限り作物の種類を多くし、且その上種々の野菜や果樹も栽培し、牛とか馬とか乃至鶏、豚、綿羊のやうな小家畜から、養蜂養鯉、養蠶、養兔のやうな方面も適當に加へ、農閑期には副業として農産加工をも行はうといふ様なやり方をいふのである。

單式經營を改めて多角的經營に移るこゝが即ち農業の多角化である。農業の複雑化といふのも之に等しい。つまり雑多な農産物を結合して行ふことが農業の多角化なのである。勿論、何でも無暗矢鱈に盲目滅法に結合するのではない。自分の住んでゐる地方の自然的事情―氣候や土壤、經濟的

事情―交通状態や市場の遠近、其の他耕地の廣さ、資本の多少、家族の人員、働き手の多少等々、一切を考へ合せた上で、各種の農作其の他の仕事を最も有効に結合するのである。

だから嚴密に言ふと、どんな風に多角化するかといふ事は、個々の農家で異なるべきものである。隣の家でかうやつてうまくいったとしても、必ずしも自分の家にあてはまることは言へず、自分の家のやり方は又他の家ですぐ眞似することも出来ない譯である。

凡その所は此の地方では、かういふ組合せがよいといふ或る種の型はきめられるが、之をそのまま鵜呑みして實行すると、取返しのつかない結果に陥るといふ事さへあるのである。しかし之等に關する注意は後に改めて述べることにし、次には何故多角化といふこゝが大に唱へられるやうになつて來たかその意味について調べて見るこゝにしよう。

多角的經營の唱道されるわけ

何故「多角的經營」をいふこゝが推奨されるのであらうか、詳しいことはだんく述べて、差當つて凡その見當をつけてから前に進む事にしよう。

今之を積極的と消極的の二方面から考へて見る。積極的といふのは進んで行ふ方面で、農業を多角的に行つた方が儲けが多いといふ方面である。消極的といふのは退いて守る方面で、多角經營にした方が、農業經營上損失を來す場合に輕くて済むといふ方面である。農業の多角化といふことは此の二つの方面から考へて見るべき事で、兩方面共有利であるとすれば、誰しも自分の仕方を之によつて改良して行くべきである。

第一、積極的方面に就て言ふに、札幌さか、小樽、旭川さかいふ大都市附近に於て行はれてゐる多角經營は、商品として價値ある生産物を、成るべく數多く産出するために、各農家は色々な作物を栽培する。その方が利益が多いのである。その季節々々の需要するものを、その需要に応じて小賣して行く値段は、都市を遠く離れた地にある農家の驚く程高値である。(更にそれを季節外れに作つて賣るといふ事になれば尙更である。促成栽培や抑制栽培が行はれる理である)

かういふ土地では、同一種類のを澤山作つて、一度に賣つてしまふ事は、割合損であるから勢ひ、色々な作物を少し宛作り、その間には蔬菜や其の他の園藝作物を組入れる。即ち果樹さか、草苺とか、切花とかいふものをも適當に加入する。又養鶏や養蜂も、卵や蜜を高い値段で小賣出來

るから行ふ様になる。同じく蔬菜といつても大根や芋蒔ばかり作るのではなくて、ミツバ、セルリチシヤ、アスパラガスの様なものさへも取入れて、その種類が多くなつて行くのである。

以上の様に儲けを多からしめる爲の多角經營といふ事は、此のやうな土地には今日八ヶ間しく論ぜられないうちに、既に行はれてゐるのである。然るに世の中の變遷によつて、かような都市に接近した地方の農家ばかりでなく、都市に遠い地方の農家に於ても、昔のまゝ單純な穀菽を主とした農業にのみ止まらず、商品的生産を加味して行つた方が經濟上有利であるといふ點に着眼されてその經營の組織を複雑化し、時代の要求に応じて行かう、それが疲弊せる農村更生の一つの途であるといふのである。

第二、消極的方面では前に述べた損失を輕くするといふ點、又生活を直接脅かされることを防ぐといふ様な點から、多角經營が推奨されるのである。本道に於ける實例をとらねば、稲作獎勵、造田補助等に刺戟されて、本道農家の中には、家の軒先まで水田にし、極端な單一經營をなすものが甚だ多きを加へた。その結果昭和五年に於て大豊作を見たが、米價の暴落によつて水田經營者は殆んど利潤を見るを得なかつた。然るに翌昭和六年に於ては稀なる凶作に見舞はれ、大に窮乏したのに

加へて更に昭和七年に於ても之に準ずる不作を見たので、稲作單一組織の農業者は食糧にさへ事缺き、直接生活を脅かされ、遂に救助を受ける者が多数に上つたのである。

又長野縣等に於けるが如く、養蠶業が著るしく發達した場合、昨今の如く繭價が低落すると農家の經濟的破綻が直に來て、之に堪える力の少い小農は、自給的生産の無い爲に文字通り食ふに困るさいふ状態に陥る。故に農家は生活といふ事の爲に是非共、ある程度迄は自給的生産を加へなくてはならないのである。特に工藝用作物の如きを栽培する場合にさうであつて、除蟲菊、薄荷の如きが萬一低落の際には、之を食ふ譯には行かないから、勢ひ、自家の生産物は情ない位に安く賣つてそれで得た血の出る様な金で、麥なり粟なり馬鈴薯なりを普通の値段で買はねばならない破目に陥るのである。かくて農家の食糧自給が叫ばれ、又多角經營問題が提出されるのである。

尙今一つ、多角的經營の要求される根據としては農産物の生産費を低下して、今日の低い農産物の價格に對應せしめようといふ事である。即ち冬期に於ける大農閑期は勿論、春夏秋の間にも始終出來てくる仕事の暇(手すき)といふものを冗にせず、その勞力を利用すること、又家で遊んでゐることの多い老幼婦女の小さい勞力をも利用するといふことは、生産費を低下せしめる大なる役割をつとめることになる。それには是非とも農業經營を多角化し、園藝的作物、畜産方面副業などを加味し、婆さんは何を、太郎は何をと小さい勞力も利用し、又自分たちも一寸のひまを利用して働かせる方面を作つて置くことが大切で、之等の方面から生ずる収入は従来よりも餘分となるので、一家經濟も有利に轉向することとなるのである。

以上はほんの概略である。之等に關し諸君と共に以下、もう一層突き込んで問題を研究して行つて見よう。

資本主義の農業に對する影響

資本主義的生産といふのは、資本(資本家)といふものが中心となり、大きな力を發揮して、色々な機械を用ひ、勞力(人間)も機械化され(恰も機械の一部であるかの様に見做され)大規模に商品を生産して行くといふやり方をいふのである。

例へば製鐵さか造船とか紡績とかいふ重要工業が、偉大な資本力を有つた小數の會社によつてなされてゐるのがそのよい例である。しかし之は以上のやうな特殊の工業にばかり止まらず、従來家

内工業的に行はれてゐたものや、農家の副業として行はれてゐたやうなものまでも、此の資本の力が働いて之を工場工業に迄移してしまひ、廉價に大量生産を爲すといふのが今日の状態である。

碎いて言ふと、草鞋を作るのに今迄はめい／＼が自分の家で薬を打ち、紐を作り、草鞋の底を編み、紐を通す耳を作り、仕上を行つてゐたとする。そして自分の家で使ふ分の外は之を商人に一足三錢で賣り、商人は五錢で小賣してゐたとする。所が茲に大きな資本を有する人が其の村に工場を建て、その村の薬を買ひ集め、村人の中から希望者を備つて職工とし、機械を据へ付けて、薬を打つことも、紐を作ることも底を編むことも皆器械でする。職工即ち人間のすることは機械を運轉すること、薬を運ぶこと、耳に紐を通すこと、荷造りすること位なもので、他は皆機械が草鞋を作つてしまふ。出来たものは人間が一つ一つ手で作つたものより優美に出来、丈夫さも變りはないとする。しかも機械が主として働くのであるから、寸法も皆揃ひ、尙最も肝腎なことには生産が、一人一家庭で作つた何百倍といふ速さで行はれる。従つて勞銀の一足當りがグツト低くなつて来るから、商人に一足一錢五厘で卸しても充分利益を見ることが出来る。たとへ一足づゝの利益はズツト少くても、何萬足と賣るのだから合計の利益は大きい。

かうなると商人は第一安いし、品物の數量が一箇所に纏つてゐて、仕入れるのに買ひ集めるなごいふ手数は要らず、見たところも立派で、丈夫さも變りないとすれば、一足三錢なごいふ價で農家から買ふものはない。農家では仕方なく今迄三錢に賣つたものを泣き／＼工場製品なみに一錢五厘に賣ることになる。それでも商人は品物の數が揃はず、見かけも工場製品より悪いといふので買つては呉れない。さりとて一錢で賣るなら、寧ろ非常な手間をかけて草鞋とするより、その工場に薬のまゝ賣つた方が割得さいふ事になりすが世に聞えた副業としての草鞋村も、誰も草鞋を作らぬものなくなり、工場だけは益々草鞋の生産高を増して行く。そして儲かるものだから資本が増して行き、もう一つ工場を増設する。そして益々資本が集中される。村の人々は草鞋作りさいふ副業を奪はれ貧乏するが、工場の資本主は益々財産がふえて行く。

之は一つの作り話であるが、資本主義的生産さいふものは此の様に資本の力で大仕掛けな商品製造を行ひ、今迄よりも廉くてよい品を作つて行くといふやり方をいふのである。昔家内工業として行はれてゐたものゝ大部分が、資本の爲に工場工業に移つて行つたさいふのが今日に於ける現状、世の有様である。

諸君は茲で次の様に思ふかも知れない。「それは如何にも副業としての農産加工といふ方面は、
專業家が出て工場工業に迄發達し、例へば澱粉製造のやうにその仕事を資本家に奪はれてしまつた
が農業の本體たる作物を栽培することは機械では出来ない部分が多いから、そこまでは資本主義の
影響は蒙らない。」と。

しかし、之は誤りで、如何にも栽培さういふ技術的な方はさうであつても、栽培する作物の種類と
いふことになるこゝ、茲に大きな資本主義の影響を受けてゐる。昔は農業は自給自足が本體であつた
即ち自分の家で必要なものを作り、そしてその餘つた部分を販賣して金にするといふ風であつたの
が、資本主義の發達するに従つて、農家は自然に之が影響を受けて、商品的な生産物即ち賣る爲の
農産物を生産する様になつて來たのである。

今之を今日の我が國の農産物に見ると、その全生産物中販賣される數量の割合は、米五五%
繭一〇〇%、大麥、裸麥は二五%、小麥は五六%、馬鈴薯は三九%、甘藷二七%、西瓜六一%、溫
州密柑八九%、鶏卵五四%といふ統計になつて居り、農産物全體を通じて少くも六割位は商品とし
て販賣されてゐる状態である。

そしてこの商品生産化の傾向は最近迄比較的急激な勢ひを以て進んで來たもので、例へば粟、稗
蕎麥、大麥、裸麥といったやうな自家用的性質の生産物の作付面積は著るしく最近減少してゐるが
果實類、蔬菜類、畜産物といったやうな市場向きの生産物は著るしく増加してゐるのである。歐洲
大戰前五箇年平均を一〇〇として、最近の五箇年平均を見ると、果實類ではその生産額、櫻桃が三
五〇、葡萄が三一二、日本梨は一八九、蔬菜類ではその作付面積に於てトマトが一二三七、西瓜が
二七〇といつた激増を示してゐるのに、雜穀類は五〇乃至六〇臺に、裸麥、大麥は六〇乃至七〇臺
に減少してゐるのである。

然らば何故にかくの如く「商品的」な生産が増加して行くかといへば、結局それは資本主義の發
達と共に、農業者でないものが數が増して行き、農業者の作る生産物を買ふ者が増加し、或は肉類
さか園藝的作物即ち果物さか蔬菜類さかに對する需要が増して行き、一方その生産技術も發達し、
之に加へて市場に之等の生産物を運ぶ交通機關(汽車、自動車等)の發達が一層馬力を加へ、かう
いふ様な状態を生み出したものである。

勿論、かういふ様な事情の變化があつたからきて、我々農業者が自家用生産物を作り、所謂自給

經濟に止まつた方が利益であるといふのであれば、我々はそんな商品的生産物を生み出す作物を栽培することに一生懸命になるといふ事は無いのであるが、麥を植ゑる代りに桑を植ゑ、蕎麥の代りに葡萄を作るといふ様な事が、結局經濟上利益だといふ事になると、或は耕地の大部分を西瓜畑にしてしまふといふ様な事も斷行するのである。

農業が社會の資本主義的發展に伴つて商品生産化する傾向に進む場合、農業は或る場合には非常に複雑化するし、又或る場合には非常に単純化する。つまり前記のやうに大都市に接近した地方では大に複雑化することが多く、又反對に水田地とか薄荷、除蟲菊のやうな特用作物栽培地では極端に単純化する。又都市接續地でも、葡萄園、梅園、西瓜、大根と矢張り極端な單純化の形式を探ることとなる。結局、極端な複雑化にせよ、極端な單純化にせよ、農業の變態的な形式をこるのほつまり資本主義的影響の結果であり、生産品を商品とするといふ事から生れて來る結果なのである。かくて比較的市場に遠い地方、従つて大部分の農家が資本主義的影響を受けると、多くは經營が單純化される。嘗て衣食住の原料を殆んど自己の勞働で直接生産してゐた農業者が、衣服も燃料も建築用材も肥料も食糧も生活の重要部分は悉く之を購入するといふ事になつて來たのである。水

田地では米だけは自給出來るが、西瓜の名産地では全部買はなければならぬ譯である。

それと同時に或る一つの商品的生産が有利化するに、水田地や名産地でなくてもその生産のみをやつて一層農業經營そのものを單純化する傾向を生ずる。殊に一地方に於て或る一つの生産が非常に有利であるに流行的傾向を生じて、猫も杓子もいふ風にその生産に走つてしまふ恐れがある。

しかし茲で翻つて考へて見るのに、商品生産農業の有利性といふものは、その農産物の値段が「高い」いふ事を第一の條件とすることは言ふまでも無いことである。自家の飯米すら作ることをやめて養蠶に専念するのは、養蠶をやつて飯米を買ふ方が割がよいからである。薄荷にしても除蟲菊にしても同様である。若し繭價が下落して飯米位は作つた方がよいといふ状態になれば、養蠶地にも再び自家用農産物の生産が頭を擡ち上げて來るのは當然なことである。

ところで近來世界的經濟恐慌の結果、商品的農産物は著るしい打撃を受けた。これは單に農産物だけの事では無いが、農産物の價格の低落は、その下落率が他の工業物に比較して甚だしかつた。つまり農家の賣るものは非常に下落したが、買ふものはその割合に下つてゐない。のみならずその支拂ふ所の租税や公課や負債の利子は一向下らない。そこで農家が自給經濟から全く離れて、商品生

産のみを行ふといふ立前に對して疑問が投ぜられ、之が今日農業に於ける自給主義への復歸運動の源を爲したといふことになるのである。

自給主義への復歸

以上述べた様に、現在の社會經濟状態の下に於ては、農家の賣るものは廉く、買ふものは高いのであるから、農家は出来るだけ買ふものを少くしなければならぬ。その爲には是非とも自ら農業經營を多角化しなければならぬといふ事になつて来る。經營上からは肥料、飼料、勞力等を出來るだけ自給して行くことに努める。従つて大に稼がねばならない。それから家計上からは、自家用の消費する品物は自分の家で生産する、即ち味噌も醬油も自分の家で作る。營養品も自分の家で生産して行く、その爲には味噌、醬油の原料たる麥や豆も作らねばならず、食糧としての蕎麥、米、粟、麥、玉蜀黍、馬鈴薯、野菜も栽培せねばならず、更に營養品としてトマト、アスパラガスの栽培、納豆の製造、養蠶、養豚、養豚ハム製造など、畜産乃至農産加工も加味して行くを要し、勢ひ、經營の多角化が要求されるのである。

殊に近來わが國に於ける純然たる商品的農業生産が比較的大規模に、且廣汎に行はれたのは養蠶業であつた爲、所謂單式的商品生産農業の危険が痛感され、茲に自給性を加味した多角經營が強く唱へられるやうになつたのである。本道に於ては養蠶が左程行はれてゐないが、稲作に於ける危険から同様多角經營が叫ばれるやうになつた。

屢々述べたやうに、今日水田地の有様を見るに、殆んど見渡す限りの稲で、住宅だけ残して全部水田といふ有様である。米價安いといふことは政府の政策によつて、或る程度までは防止されるから、對外關係を主とする養蠶のやうな甚だしい憂目は無いにしても、本道の稲作には、府縣と著るしく異つた事情があつて、危険性を帯びてゐることは同様である。

即ち本道は寒地であつて氣候に恵まれてゐない。たとへば多品種の育成や耕種法に於て改良を遂げられてゐるにせよ、結局稲は熱帯性の植物であつて生育期間の溫度といふことが、その生長に關して多大の影響を齎す。然るに本道では極端に生育期間が短いため、その期間に十日なり二十日なりの冷涼な氣候に遭ふと、甚だしく生育を害されて、短期間に之を恢復し得ず、直に收穫期が來てしまふといふ事が多い。従つて不作の年が府縣に比して割合に多い。此の點甚だしく危険性を含み

言はざるを得ない。

更に又經濟的事情に於ても同様の困難がある。即ち反當收量が府縣に比して劣るこいふ事と品質に於ても概して遜色がある。故に一度豊作による米價安さいふことになると、收量品質共に劣る本道米は、その蒙る影響が一層大で、所謂豊年飢饉といふ奇現象を呈するのである。即ち米價安によつて得る所の収入は多くないのに、單一經營の爲、米の外は味噌、醤油は勿論、大根、卒勞の果までもその血の出る様な金を以て購ふことになるのである。一旦不作に際しては全く生活の基礎を失ひ、公私の救助を受なければならぬといふ事になる。

茲に於て米作地と雖も畑作を加味し、一旦不作に際しても食糧の悉くを金で購ふこいふ様なことを免れる用意の必要が叫ばれて來たのである。

元來、農家の立前こいふものは自給自足にあるべきである。後にも説く様に今日の社會狀態の下にあつては昔のやうな意味に於ての自給自足は不可としても、少くも本體は自給自足に置くべきである。何となれば農業は天候、風土等の自然的事情に制約されて、商工業の如く巨利を博するやうな事のない、頗る質實な職業であるから、時に農産物の値上りによつて思はぬ利得がある事があつて

も、之に迷はされる事なく、極めて堅實な途を歩む事によつてのみ生活の安全が期される。而して特に巨大な利得のない限り小を積んで大をなさなければならぬのであるから、常に出づるを制することを生活の綱領とせなければならぬ。故にその生活の大部分は自給自足に俟つべきであつて、投機的栽培をなすことは農業の邪道である。特にその収益は殆んど一年一回であつて、此の一回を投機的になすことは甚だしい危険である。商工業も雖も投機的に爲すは邪道であるが、その多くは一年一回となくその損失を補填すべき機會あるに反し、農業に於ては一年一回の作であるから特に之を慎むべき要があるのである。自給自足を本體として其の餘れるを賣つて諸費に充てることを本體として進んでこそ、自然の制約の中に於ても安全な生活を營み、内に恒心を保持して國民の中堅乃至柱たるを得るのである。

但しかくの如く一方に於て自給生産への復歸を眼目とする複雑化が要求されるが、又今日の社會經濟狀態の下に於ては、昔のやうな自給經濟に踰踏することを許されない種々の事情もあるから、かゝる點をも考慮の中に入れて、適當な案配を施して行かなければならない事も我々は注意なくてはならない。

即ち今日我々が支拂ふ多額の租税、公課や負債の元利支拂は結局「金」を以て行はねばならず、又消費經濟に於ても教育費、修養費、電燈費、衣服費、醫療費、農具費の如き矢張り「金」に頼らねばならぬ部分が可成り多くなつて來てゐる。農林省の農家經濟調査によると、中庸の日本の農家の經濟は、平均五〇％は現金を通じて行はれてゐる。即ち自作、小作、自作兼小作二百二戸の昭和三年度の支出二千二百三圓中、現金支出一千三十三圓、現物支出一千七十七圓他に減價額九十三圓といふ調べになつてゐる。従つて或程度迄は農家が商品生産を行はねばならない事情に置かれてゐる言はなければならぬ。しかし單式經營に於ては殆ど全部が商品生産であつて、従つて殆ど全部が現金支出となるのであるが、多角的經營による半ばは現金支出を減じ得るといふ事になる。此點多角經營の唱道される所以である。

それから又農業の發展傾向から見ると、等しく多角化といつても、比較的自給性の多い穀作經營なきやつてゐるよりも、近代的園藝或は畜産といつたやうな種類のものを加味した方が有利である。そこで自給主義の復歸といつても原始時代に近い昔の自給的農業の姿に歸ることは許されないのであつて、近代的商品生産といふことを多分に加味した自給主義でなければならぬのである。

生産費の低下と多角的經營

既に述べた如く今日農産物の價格は著るしく低下してゐる。之が現在農村疲弊の大きな原因である農産物が低下しても、其の割合と同じ程度に買ふものも廉くなり、租税も諸種の公課も借金の元利も下つて呉れれば、何も農村が疲弊するに至らないのであるが、農産物の價格のみが著るしく低下し、他は下らないか或は下つてもその率が小であるため我々は苦しいのである。さりとて農産物の價格といふものは、或る特別な事情がやつて來ない限り、いくら政府が心配しても色々な方法を用ひ、或は多額の金を費しても、中々之を騰貴せしめるといふ事は六づかしい。一國內だけであるならば割合都合よくも行くけれど、對外關係がその間に介在するのであるから、その時機が來る迄は人為の如何にもする能はざるところである。

それかさいつて、何時までも其の時機の來る迄待つて居る譯には行かない。お互一日一日生活を續けて行かなければならぬのであるから、そんな「百年河清を待つ」といふ愚かな眞似は出來ない。勢ひ、之に對する何等かの對策を講じなければならぬ。それには結局生産費を低下して、農

産物の價が安くてもどうにか間に合ふといふ所まで漕ぎつけなければならぬのである。

生産費を低下せしめる方法は種々ある譯であるが、今迄の經營法を改善して勞力の利用經濟を圖るといふ事も有力な方法の一つである。此の方面からも我々の農業經營の方式を多角的ならしめるこいふことが要求される。

靜かに反省して見るに、我々には農閑期といふものがある。又普通の時期に於ても半日手すきになつたといふ様な事は始終ある事であり、又雨降りで骨休めをする事もある。一日の中でも朝晩三十分や一時間冗な時を費すといふ事は、何處の家にもあり勝の事である。此の勞力を動員するのである。經營が單式であると、その勞力の動員の仕方の無い事さへあり又動員しても餘り有効に働かされないといふ場合が多い。然るに經營が多角化されるに、果樹の方面蔬菜園藝の方面、畜産の方面農産加工乃至其の他の副業方面に、煙草を吸ふ暇も無い程手が要つて、決して冗な時を費すこととは無い。

朝から晩寝の時までそんなに働きづくめで、一分も休む間が無いのでは身體が續かぬか、何の樂みもないかと思ふのは、やつて見ない人の話である。人間は働くやうに作られてゐる。だから

くら働いても決して壽命の短くなる様な事はない。益々健康になつて行く。骨休めに一杯酒を飲んだり悪い遊びをやつたりするので身體をこわすのである。「何の樂みもない。」などといふ者は自己の職業以外に樂しみを置かうとするもので、自己の職業の中に樂しみを見出せない不幸な人である。人間は自分の仕事の中に樂しみを見出す人がほんごうの幸福な人である。麥や玉蜀黍や馬鈴薯や除蟲菊だけ作つて樂しみが無いこほしてゐる人は、先づトマトをアスパラガスを、果樹類を花卉類を扱つて見給へ、更に養蜂を養蠶をやつて見給へ、自分の家に豚を飼ひその肉でハムを作つて食つて見給へ、その中に無限の愉快さ、樂しみが湧いて来る。編者の如きは一函の養蜂を試みてゐるが、時々刺されて顔をはらし乍ら、その樂しみは全く盡きる時が無い。

更に又、ごこの家にも老人も子供とか、烈しい勞働に堪えない爲、常に勞力を空費してゐる者が居るものである。このか弱い勞力も經營の仕方によると生きて働く。即ち多角的經營によつて之等の勞力も動員されるのである。どんなお婆あさんでも鶏の餌をやる位の事は出来る。尋常一二年の子供でも養兎の手傳ひ位は出来る。もつこ工夫すればその働く仕事の性質によつては、血氣旺な壯年者と同様の仕事も出来るのである。此の勞力を活用しなくては勿體ない事である。

かくして婆あきさんはお寺詣り銭が出来、子供は自分の働いた金で學用品が買へるから大威張である。主人公はお蔭で之等の支出を節約出来るから、結局大い生産費が低下される事になり、農産物の價格が下つたのに昨年同様、或は昨年以上の収益を擧げたといふやうな結果にもなるのである。此の事は單に經濟といふ點に利得があるばかりでなく、一家の精神上にも影響して、和樂の源ともなるのである。一家八人も九人もゐるのに、主人公夫妻だけが營々として働き他は遊んでゐる。そして来る年も来る年ももうまくないのではつい不平も出るし、面白くもない。それが一家全體揃つてそれ々の分擔の仕事に奮闘し、それ々々収益を増すことに貢献するこいふことになる、一家の和樂は期せずして至るものである。此の點に於て適當な多角的經營の齎す効果は偉大なものであるのである。

以上の要約

以上述べた所を便宜上要約してハッキリさせて置きたい。即ち今日唱道され推奨される農産物の多角的經營は

- 1、單純な商品生産的農業の陥る困難を、自給經濟を加味した複雑農業によつて救はんとするこゝ
- 2、單純な穀作的農業の陥る困難を、複雑な近代的生产を加味する多角的農業によつて救はんとするこゝ
- 3、農産物價格の低下に對應し、生産費の低下を目的とする經營の多角化によつてその困難を救はんとするこゝ

以上の三點が複雑化運動（多角的經營運動）の有つ時代的意味である。之の三つが所謂三位一體的に働いて、我々の農業經營は新しい曙光を見出すに至るであらう。

後に記す農業結實改善による農家更生の實例も、實に此の様な着眼點から行はれたものである。ここに、讀者は注意の眼を向けて見られんことを希望する。

經濟恐慌に當面した凡ての企業が會て合理化を提唱したのであるが、農業に於ても凡てが合理化されなければならぬ。獨り耕種法の各方面のみならず、その經營法に於ても合理化されなければならぬ。多角的經營の如きも確にその合理化の一面の現はれである。尙之等については本叢書第七

編「農業の合理化」に於て詳細に論ずるから茲では省略して置くことにする。

斯くて次に來る問題は、多角的經營に伴ふ利害と、之を執行せんとするに當つての缺くべからざる注意事項とである。諸君は尙その研究の歩を之等の問題について進められたい。

多角的經營の長所

多角的經營といふ事は既に述べたやうに、色々な視點から要求されるので、その利害を一般的に述るといふことは困難であるが、概略を茲にまごめて見るといふ事は無用の事では無いと信ずる。尙既に述べたこと、多少重複することは、茲に一まとめにして述る以上避くべからざる事であるから、讀者は此の點も豫め諒せられんことを望んで置く。

第一 多角經營の保險作用

1 自然的事情に對する保險作用

農業はその性質上自然的事情によつて其の豊凶を左右されるといふことは既に述べた如くである

従つて農業が單一組織の形を探るに一言ひ換へれば農業生産が一方に偏すると、其の作物について遠算を生じた場合、農家の經濟は甚だしい危険に陥る。然るに多角的經營であると、その作物の種類が多い上に、その方式に依つては畜産又は農産加工其の他の副業も加味されてゐるので、たとへ一部分に不作があつたとしても、他の部分が普通作乃至は豊作であれば、比較的損失が少なくて濟み一家經濟が窮境に至つて、人の情にすぎるといふ様な醜態を演じなくとも濟むといふ事になる。

2 農産物價格變動に對する保險作用

しかし農家經濟に對する保險作用から言ふと、此の自然的豊凶に對する場合よりも、農産物の價格の變動に對する保險性の方が一層重要である。何となれば今日に於ては農業技術の進歩發達によつて、自然現象即ち天候による豊凶、特に著るしい凶作といふ事は非常に減つて來た。(本道に於ける稲作の如きは例外であるが、之にて十年に一回といふ風に稀である。)のみならず、若干の不作は農産物の品不足による價格の騰貴によつて、反つて我々に利益を齎すことさへある。然るに最近に於ける農産物の價格は高低常なく、しかもその騰落は商品の種類によつて一樣ではない。従つ

て一種類の生産にのみ従ふ場合は、それがよし豊作であつたにせよ、その價格が暴落した際には農家は全く窮迫しなければならぬのである。その例としては今日の專業的養蠶農家の地位を見るに明瞭である。ところが多角的經營によつて多種類の生産を行ふときは、農家經濟を此の危険から免れしむることが出来るのである。

毎年比較的値下りの少い生産物、或は騰貴の大きな生産物のみを作り當てることが出来れば、勿論之に越したことは無いが、人間の世界は一寸先が闇で、明日の相場のことすらも見極めることが出来ないのが人間の智慧である。況んや來年度の農産物の價格といふことになると、如何なる人でも判らないのが當り前である。だから世俗に「來年の事を言ふと鬼が笑ふ」とある。又萬々一それが出来るとした所で、農業の中にはさう急に生産を始めることが出来ないものが多い。來年は米が下つて苹果が甚だしく當るに判つても、今年接木したのでは來年の間に合はない。その他の果樹や畜産や養蠶などにしても景氣がよいからと言つて直にそれを大々的に始めることは出来ない。殊に相當な生産技術を要するものにあつては尙更急場の間に合はない。やうやく作り出した頃には値が下つて損をしたなど、いふことは、流行的栽培物に例の少い事ではない。

そこで此の農産物の種類が異なるに従つて生ずる價格の變動、即ち或る種類の生産物だけが暴落した場合、この生産物のみを作ることから生ずる打撃を避けるため、又或る特殊の生産物の價格が騰貴した場合そのお蔭を蒙る機会を多くする爲に、平素から成るべく多くの生産を手がけて置くことが必要になつて來るのである。

勿論、價格といふものは常に變動があり、その變動に應じて作付が變つて行き、そこに又價格の第二の變動の源が作られさいつた調子で、結局長い眼から見れば、比較的進歩的な生産物の生産に従つてゐれば損得は少いといふ事も言へるが、今日の小農の經濟力ではかうした場合、極端な危険を乗切る力が無いのであるから、出来る限りさういふ様な危険に近寄らない方が賢明なやり方である。

3 自給的色彩加味による保險作用

多種の商品的農産物の生産といふことと並んで、自給的色彩を加味する多角的經營は、等しく價格の下落に對して農家經濟を保險する作用をなすが、之は餘程その保險作用の意味が異つて來る。

しかし之も重要な意義を有してゐるものである。

たゞへ各種の農産物を作つてゐるにしても、それが「商品的」の生産物である限りは、その騰落による利害の高下は免れない。それで特に今日の如く農産物一般の價格が下落して、しかも農家の必需品の價格はそれ程下らないといふ様な状態に於ては、たとへ如何程多種類の商品的農産物を作つて見たところで、猶價格下落の打撃を免かれることは出来ない。

そこで農家は農家にとつて不利益な可なる價格變動の外に立つて、獨立して生活の基礎となる物資を生産するといふ事が今日の時世では必要なことである。商品的生産物だけ作つてゐて、食糧品その他生活必需品に關するものは一つも作つてゐないとする、その生産品全體が著るしく下落したときに、生活必需品を購入するだけの金も手に入らぬことがある。本道に於ても嘗て玉葱が種子代、肥料代、函代を拂ふに、一文も手に残らぬといふ程暴落したことがあつた。それでは飢えてしまはねばならぬから、兎も角自家の主要な食糧品だけは自給するといつたやり方で、非常につきつめた場合の農家の自己保険である。

此の事は商品的生産といふ事が異常な立場に置かれたこの世界的經濟恐慌を背景として、各國が

關稅を高くして外國商品を排斥し、自給自足的傾向を高めてゐるのと同様な立前である。此の保險作用は經濟界の變調の際のみならず、凶作といふ様な場合にも重大な意義を有つてゐる。それで常に自家食糧を栽培してゐることを忘れないのは、一つの大切な農家のたしなみと言つてよいであらう。我々は此のたしなみを忘れ、儲ける事のみを考へて、流行的作物へ勢力を傾注してしまふなどといふことを恥と心得なくてはならない。

第二 生産要素の完全なる利用

生産要素といふのは、土地、勞力、資本の三つをいふ。多角經營の利益の中で最も重要なのは勞力に關してであるから、先づ之先に述べることにする。

1 勞力の合理的作用

小農の經濟は「勞作經濟」と稱せられる程で、自家勞力利用の巧拙が殆ど經營成績を左右すると言はれる。而して既に述べた様に多角的經營に於て始めて之が良く案配されるものである。

(イ) 勞力に於ける自給性の確立。今日の農産物の價格の狀態では、多くの場合雇傭勞力による農業經營は間に合はない。労働賃銀と農産物價格とが引き合はないからである。言ふ迄もなく農業は季節によつて繁閑の差が非常に著しい。その爲ある一つの生産、例へば養蠶ならば養蠶を手一ぱいにやらうとするならば、どうしても四五齡期には臨時雇をしなくてはならなくなる。それでは引き合はない。さりとて繁忙期に雇人をしなくてもよい様な小さなやり方では、それだけで一年食つて行くことは出来ない。ところが多角經營をやつて、後にも言ふ様に勞力の分配を適當に行ふと、自己勞力の完全燃焼と雇勞力の排除を實現することが出来る。此の意味に於て多角經營は勞力の自給性を可能にする。

しかし勞力の自給といふ事は決して雇勞力の排除だけで確立されたといふ譯には行かない。例へば我々が農業經營に畜力を利用するにせよ。たゞへ役畜を自ら所有してゐるにしても、其の役畜に給する飼料を他から買つて來るこいふ風では、その役畜の勞力は「自給」されたとは言へないのである。家族の勞力を役畜の勞力に比較することは不都合かも知れないが、物の理は同様である。自分及び家族の食糧を他から買つて食ふといふ事では未だ完全な勞力と言ひ得ない。此の意味から家

計上必要な生産物を、出来る限り自家生産に置くといふ自給的方面からの多角經營は、勞力の自給といふ農業經營の立前と一致するのである。茲に農家經濟上に於ける經營と家計との結合の妙味があり、多角經營の利點があらはれる。即ち多角經營の一面としての自給生産は、かく農家經濟の基礎たる勞力の完全な自給性を確立するのである。

(ロ) 自家勞力の完全燃焼。農家自ら有するところの勞力は、年内各月否各日殆ど一定してゐるものと見てよい。勿論不時の疾病や婚姻等によつて勞力に變化を生ずる場合もあれば、學校の休暇その他の臨時に一定期間勞力が增加するこいつた様な變化は勿論あるが、大體に於て其の供給し得る勞力といふものは一定してゐるものと見よ。そこで此の勞力を充分に利用するには、毎月毎日此の供給力に應じた等量の労働を必要とするその他の作業が存しなければならぬ。ところが農業生産といふものは、多くの場合個々の生産、例へば稲作、養蠶などをこつて見る、こ一年を通じて即ち猫の手も借りたい程忙しい時もあれば、數日少しも手になげなくこもよいか、或は一日二時間か三時間だけ勞力を要するだけだといふ様な場合がある。故に之等の中たゞ一つに依頼する單式經營に於ては、農閑期に於て自家勞力を遊ばせて置かねばならない、此の期間中他に適當な勞力

利用の途があれば勿論結構であるが、しかしその様に都合よく他に備はれるまい事は始終あるものではない。水田地なきでは自分の家で勞力が遊んでゐる時季は隣の家も向ひの家も同様だといふ事になる。

然るに若し多角經營を行つてゐれば、決してこんな冗はない。此の事に關しては既に述べたことであるから之位にして、左に參考の爲に單純な經營と多角的經營との一箇年の勞力利用關係を實例によつて示して見よう。

農 業 勞 力 分 配 事 例	農 業 勞 力 分 配 事 例												
	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計	
稻	—	二、〇	三、五	七、七	二、〇	二、四、〇	一、九	三、六	一、六、三	三、四、〇	三、八	三、〇	一、二〇、七
麥	一、四	七、四	三、九	七、一	六、一	—	一、一	—	一〇、七	八、四	四、四	〇、四	五〇、九
其他耕種	二五、一	二〇、六	三、七	一六、一	一四、九	二、三、六	八、八	五、二	六、〇	八、八	一八、九	七、八	一六七、五
養 蠶	—	一、五	〇、八	一四、一	五、七	二、一	八、四	一三、七	二、五	—	—	—	五七、八
養 畜	七、七	六、六	六、二	六、一	五、八	六、四	五、二	四、五	五、九	五、五	六、五	八、一	七、四五
農産加工	三、七	六、二	一、八	二、五	—	二、一	五、七	五、三	二、七	〇、四	三、五	六、七	四九、六

堆肥刈草	修 繕	其 他	計
—	二、三	二、〇	四三、二
一、〇	〇、九	五、〇	五、二
二、一	—	二、八	四三、八
一、三	—	四、三	五九、〇
一、〇	—	—	五四、五
一、三	〇、四	〇、二	五九、一
三、三	—	—	三四、三
〇、八	—	〇、三	三四、四
—	—	〇、九	五三、九
〇、六	—	三、八	六、五
〇、四	〇、七	一、八	四〇、二
—	—	三、六	三、二
一、二、三	五、三	—	五六三、二

此の農家は家族従業者二人であつて、平均勞働可能日数は家事勞働を考慮に入れると、五十日乃至六十日と見るこゝが出来る。この勞働供給力に對して五十日以上働く月が六ヶ月、四十日以上の月が三ヶ月残りの三ヶ月は三十日以上である。しかも雇勞力を殆んど使用してゐない。各月平均に實によく勞力の分配が行はれてゐるに共に、全勞力に對する利用勞力の歩合は又著るしく高いのである。かくの如き勞力の利用の行はれてゐるのは全く農業が多角經營化してゐるからに外ならない。月別平均に於てかく勞働力が良く利用されてゐるばかりでなく、此の經營に於ては稲作、麥作、その他の耕種、養蠶、養畜等に分配せられた勞力が又比較的均してゐる。

今此の經營が稲作のみ行つた場合を考へるに、稲作勞働日數合計百二十一日の中、七十九日は六月、十一月の三ヶ月に取られるのであつて、一月、三月、四月、五月、八月、十二月の如きは殆んど稲作のための用働は無ないのである。又その他の耕種の勞働日數百六十八日中、八十五日は一、二、

三、十二の四ヶ月に於てなされ、麥作労働は一、二、七、八、九月等は殆んど之を度外視するもよい状態である。(之は府縣の例であるが、本道に於ても同様な事が言へる事は勿論である) 多角的經營が勞力の合理的分配上如何に必要であるかは之によつて見ても明かな事であらう。

のみならず多角經營はある場合には家族の勞力として計算に入れることの出来ないやうな半端な勞力を適當に利用する機会を作る。或は養鶏、養兔といったやうに體力を要するこの少い仕事は老人、子供の勞力を生産的方面に圓滑に轉化することが出来ることは既に述べた如くである。而してかうした勞力の利用が可能であることは、小經營にあつては極めて重要な意義を持つものなのである。

かくの如く出來得る限り家族勞力を利用し、一年當労働日數を大ならしめる場合には、一ケを平均して見るに一日當の労働所得は少い。それは労働報酬の大きな仕事ばかりを結合して多角的經營を作り上げることは出来ないから、即ち多數の仕事の中には割の悪い仕事必然的に混つて來るのであるが、しかし一經營一年間の總所得となるに、結局多角的經營の方が有利であるといふ事になる自家勞力を主とする農家の場合に於ては、その一日當の報酬は少くとも、總労働日數が多く所得

が多いといふ事が必要なのである。一日當りの割が良くても遊んでゐた日が多くては仕方がないではないか。

2 土地資本利用の集約化

單純農業を営む場合に於ては、土地、建物、農具、現金等の分配、利用が一方的乃至一時的となつて不利益な場合が多いものである。

土地について言つて見ると、單式經營では裏作をしないから、その土地を遊ばして置く事が多く不經濟である。従つて農家の自給勞力が働く反當りの労働容量が少い。それは結局労働人員の割合に耕地面積が多いことになるので、地代の高率があつては農業經營が引き合はなくなる真が多い。然るに之を多角經營化するに土地の利用率が増し、労働容量はグット多くなつてくるつまり土地利用の集約化が行はれるわけである。

建物について言つても同様である。養蠶業だけを比較的大規模に行ふ場合には、養蠶の最も忙しくなる時期、即ち四齡五齡の際に必要なだけの蠶室を常に用意して置かなければならない。かくの

のであるから、何等世話も手数も要せぬものといつてよい。

即ち本来市場価値の少ない生産物を、一定の生産部面を通ずることによつて、有價値なものに轉形し得る作用は、多角的經營特に自給主義を考慮せる場合の多角的經營の特筆すべき有利な點である

多角的經營の缺點

多角的經營に於ては前記の有利な點を發揮せしめる爲には、出来る限り合理的な組織をとらねばならず、その組織の有機的結合を期すべきであるから、實行の初年度からうまく行くといふ事は中々困難であり、色々試みた上に正しい組織を得るに幾分か様になる。それ迄には多少却つて損失を見るといふことも無いではない。此の點に多少の困難が伴ふが尙次の如き諸點に於て缺けるところがあるのを免かれない。但しその有利な點は之等の缺點を補つて餘りあるものであるから、諸君はよろし、多角經營に従ひ、之等の缺點によ、注意して、出来るだけそれから受る損害を少くして行くといふことに努められたいものである。

第一 技術上の不利益

多角的經營に於ては各種の農作が取入れられて、經營内部に於てそれ／＼相當な重要性を帯びてゐる。平たく言へば十種類の組合せをこころすと、その十種類の組合せをつまやくやつて行く點に苦勞があると同時に、その十種類の一つ一つがそれ／＼又特立的にうまく行かなければならぬといふことである。従つて農家はその一つ一つについて相當の智識と技術を有たなくてはならないことになる。從來全く無經驗の新しい要素——例へば養蠶とか綿羊飼育とか——をとり入れる場合に於てさうである。此の技術上の智識の缺乏の爲從來しば／＼農家が失敗してゐる。又技術は専門的に魂を打込むことによつて優秀になり得るのであるが、多角經營に於てはかうした専門的研究が困難である。殊に果實とか高等蔬菜等品質の優良なものを作る場合、又は畜産を行ふ場合等に於ては専門的技術を持ち得ない時に不利益であり、失敗をし易い。多角的經營に於ては動もするに此の不利益を甘受しなければならぬ危険が多い。

しかし、諸君はそれだからといつて、此の危険を恐れ不利益な農業經營に止つてゐてはならない失敗は成功の基である。そのうちには必ずわがものとなる。そんな作物でも二三年やれば一人前になることが出来る。諸君に研究心さへあり、且新しい要素は始め小額を試みるといふ態度でやりさ

へすれば、此の缺點は忽ち補ひ得、解消してしまふことが出来るのである。一時に何種類も手を出すことをせず、一つ一つ征服して行つて、やがては理想的な多角的經營を完成して貰ひたい。本叢書の如きはそれ／＼本道に於けるその向きの専門家の指導を受け、それ／＼の方面の最も大切な技術上の智識を、極めて平易に要領よく記述し、そして誰人も手に入れ得る廉價を以て供給し、諸君の多角的經營を試みるに際し貴重な資料、偉大なる助手の役目を演ぜんことを目的として編纂刊行してゐるものである。之等について研究を重ねつゝ進んで行くならば、多角的經營に於ける此の技術上の不利益も、暫時にして克服することが出来るであらう。

第二 労働能率の低下

多角的經營によつて自家勞力の完全燃焼を企てると、常に比較的單位労働時間當りの報酬が少い仕事を取り入れなければならぬ。之については既に述べたところである。而して一日當りの労働所得が割合少くても、結局一年の總所得が多ければ結構であるといふことを述べた。そして之は今日の農家經濟の下に於ては確に眞理である。今更之を改める必要は少しもないのであるが、凡ての

ものは一方的見地にのみ立つて論すべきでは無い。又今日の農家經濟の状態は、他日又變動を來すべきものであり、又我々もして現在満足出来ない状態である。故に他日之が改善された状態、乃至改善して行くべき目標としての状態等の爲、違つた立場から之を眺めて見ることも必要なのである。

即ち以上を他面から考へて見ると、多角的經營は日數を多く働けるから、一日當りの労働報酬は少くてもやつて行けるさういふ事になると、その結果さういふ事が生れて来るか。それは全體としての農産物の價格が結局は餘程低くなつても農家はさうにか切り抜けて行くこゝまゝなる。……何時までも割損な働きを續けて行かねばならない事になりはしないか。例へば専門的養蠶業が今日の繭の値段では到底やり切れない。しかし多角的經營の一要素として副業的にやればさうに計算盤がこれる、さうなるに結局養蠶業は皆副業的に行はれるやうになり、益々低い繭の値段で満足するところ迄追ひつめられ、そして價格維持さういふ様な努力は妨げられて行くさういふことになる。大きい眼から見ると、多角的經營には斯うした缺點も存するのである。之等は餘り抽象的なとして我々農家には大き過ぎる問題であるし、又こんな小さな冊子では論じ切れない事であるから、一應之

に觸れるだけにして前へ進むことにする。

次には多角的經營に於ては各種の仕事に勞力が分散される結果、いろ／＼の意味に於て能率が下る。機械器具の利用などによつて能率を高めることが困難になる。或は又少量つゝの各種勞働が存在する爲に、分業の利益を得ることが出来なかつたり、屢々勞働の場所を換え、準備せ新たにしかえる爲、比較的多くの時間が空費される。之は諸君が小學校讀本で習つた分業の利益の逆を行くもので、此の點大きな缺點である。之はどうしても免かれない所であるが、單式經營には前にも述べた如く、之より幾十倍した農閑期といふ空費すべき時間があることを考へると、之等は決して我慢の出来ない事ではない。

第三 個々の生産物の數量が少い

多角的經營に於て生産物の種類が多くなることは、結局逆に各種類の生産物の數量が減少することを意味する。元來資本主義的發展は、商工業資本の擴大を意味し、農産物の取引に當つて成るべく數量のまとまつてゐることを欲する。地方の小都會で「振れ賣」をやる場合はとも角として、消

費中心地たる大都會を相手にする生産物の場合では荷が小さいことは商品としての價値を減殺するものである。又輸送關係、手數量關係でも不利益が多い。之は小經營の農業には常に附隨する所の缺點であるが、多角的經營に於て更にその缺點は倍加する。

しかし之の之でも、今は産業組合とか共同出荷組合とか農會の販賣幹部とかいふものゝ手が行き直つてゐて、諸君が之等を利用する時に、大量生産の場合に變らない利益を享けることになるので昔は大に苦痛であつたに違ひないが、現在に於ては餘り意をすることに當らない問題である。

多角的經營上注意すべき諸點

以上説き來つたことで、多角的經營を實現する場合に如何なる注意を要するかは大體明かになつた事と思ふが、尙簡單に注意を加へて置くならば。

第一 組織上注意すべき事柄

多角的經營を實行して、その有利性をよく發揮させようと思ふならば、其の組織の計畫に當つて

自己の位する自然的及び文化的環境、即ち周囲の事情と一家の事情をよく考へてから其の組合せをきめなくてはならない。殊に商品的生産を加味する場合には、その商品の市場關係運輸關係、を充分考へて見てからその種類を定めなくてはならない。折角作つても賣れ途が無いやうでは困る。又それが相當の値段で取引される様なものでなくてはならない。又之を市場に運び出す便利や運賃の關係も考へて見て、算盤のされる様なものを選ばなくてはならないのである。

又之に對する耕地面積さか、資本とか之を運用する自家勞力さかいふものゝ程度も考へてきめなければならぬ。耕地面積に無理がかゝつてもならず。その爲他から借金をしなくてはならぬといふ風でも面白くないし、又家族の勞働人員では間に合はず、他から傭人を多く入れねばならぬ様な種類のものでは考へ物である。

又自給生産に進まなければならぬといつても、無暗に商品的生産を排斥するのでは、今日の時勢に合はないし、商品生産が儲かるからさいつて、自給方面を無視することは現在の如き經濟界の状態に於てはさるべき策では無い。

かういふ風に諸方面から慎重に考慮し、一時に手を擴げるやうな事はせず、何年計畫かでの目的

とする多角的經營の狀態に達するやうにし、尙その案については一々數字的に計算も立て、見て、よく内外の事情に適合した方策をたて、先輩知人にもその計畫案を見て貰つて意見をも尋ねるさかいふ風にありたいものである。單なる他人の模倣に陥るやうでは失敗の基であり、又最後まで遂行するといふ意氣に欠け、始終その組織の内容がぐらつて遂には又元に戻つてしまふ様になる。やり出したら一二回の失敗に挫けず進む熱がなくては何事も成功するものではない。それには他人の眞似をせずに、自分が考へ出した案に基づいて強い意志で研究心を有つて進んで行くべきである。

第二 經營上注意すべき事柄

上に述べたやうな注意が行き届いても、尙前段に述べた様な缺點は除去することが出来ない。それで之等に對する策としては、或程度迄個別經濟さかいふ立場から離れて物事を處理して行く必要がある。例へば商品さかしては生産物が餘りに少量な場合に於ては、茲に大量に商品と結合する所の團體的販賣を起す必要もあらう。又勞働の能率を擧げるためには、作業上協同を必要とする。更に技術的方面に於ても協同によつて、相互の有する専門的的智能を相互に利用し合ふさかいふ風にせねばな

らぬ。

我々農家の陥り易い弊害として、例へば共同出荷なきの場合、何かの事情で一損失を受たりするに、直に不平を漏してその組合の責任者を罵したり、或は組合から脱退したりする。つまり餘りに個人的利益を強く見過ぎて、將來を見て忍耐するといふ所が無いのである。かういふ點になるに商工業者の方が遙にうまく行つてゐる。我々は常にかゝる點に反省を怠つてはならない。

第三 對外的合理化上注意すべき事柄

かくの如き點に注意して、多角的經營を巧に形成し、且つそれに内在する所の缺點を悉く除去するに當り出來たさしても、猶その經營が生産上、販賣上、自由主義を採つてゐる間は、今日の小農民の經濟的地位の向上を充分に期待することが出來ない點がある。

たさへば多角經營上新たな商品生産を加味する場合、この經營はそれだけ社會に對してその生産物の供給を増加する。従つてそれだけ價格の低下を來す原因を作るわけである。そして有利な商品生産を取入れた多角的經營が多く生れて來れば來るだけ、舊來有利に行はれてゐた多角經營の有利

性といふものは減殺されて行く、而も後から眞似て行はれた多角經營は結局損が行くといふ結果になる場合が少くないのである。この事は養豚、養雞、養兎、養蜂、果樹、蔬菜等を加味した多角的經營増加の結果、それ等の利益が少くなつた過去の例に見ても明かである。そして自由主義に立脚して、有利なものを競争的に生産することが許される限り、多角的農業と雖も、決して常に誰にも有利であるとは限らない。唯若干の進歩的な、先覺者の農民が利益を獲得し得るに過ぎない事になる。

元來多角的經營といふものは、農業の合理化を目標として生まれたものであるが、それは各經營主體即ち農家の對内的合理化に過ぎないのである。之も勿論大に結構なことであつて、諸君は須らく之に従ふべきであるが、眞の合理化といふことは、對内的ばかりでなく、對外的合理化迄進まなくてはならない。對内的合理化は僅に生産費の低下を期し、自己の生存力を若干増加し得るに過ぎないとも言へる。

試みに工業界に眼を轉じて見給へ、彼等は此の對外的合理化に大なる努力を拂つてゐるのである。即ちこれはカルテル或トラスト（備考参照）等の結成となり、或は販賣價格の協定生産制限等とな

つて價格の維持乃至高揚といふ事が行はれてゐるのである。農産物の價格は他の製造品に對して、今日一層甚だしい下落傾向にあるのであるから、かゝる對外的合理化によつて、價格方面の統制に乗り出す必要があるのである。個人的多角經營には此の意味に於ける合理化が全然無視されてゐる。そこで深く考へて來ると、今日の農村の状態では、かうした個人主義、自由主義に立脚する生産方法では駄目である。少數の人々ばかりの協同ではなほ足りない。もつと進んで村全體、否國全體の民衆の生活を基として農業問題を考へなければならぬといふことも思はれて來るのである。かうなるにこんな小冊子で扱ふのには荷が勝ち過ぎるが、例へば之を村について見れば、或家では適當な多角經營を行ふ條件がさうなつてゐる。しかし他の家では或は田畑との所有關係が不釣り合であるとか、耕地面積に比して家族人員が多すぎるとか、いふ事が非常に多い。かゝる事情の下に於て自由に多角的經營を行はしめたところが、決して村としての効果が擧るものではない。窮迫した農村の一般的救済には、更に進んだ集團的計畫經濟まで進むべきであり、かゝる廣い立場からの多角的經營こそ望ましい次第であると思ふが、今は唯諸君の心がまへまして問題を提供するだけに止めて置く。

備考

一、カルテル（シンジケート）企業の聯合

現時の經濟社會は市場といつて、一定の顧客を目的とせず、製造した物品を廣く市場に出すのであるから、時としては生産が多過ぎて同業者間の競争の後、お互に苦境に立つこと往々にしてあるのである。そこで此の競争を避ける爲に同様の獨立的目的を有する企業者が契約同盟して組合を作り、自由競争を避けて、市場を獨占し企業を有利に導かうとするのがカルテルで、「企業の聯合」といふ言葉で譯されてゐる。之は主として獨逸で行れたものであるが、我が國でも紡績業、製紙業、製糖業などの間に行はれてゐる。

二、トラスト（フュージョン）企業の合同

企業の聯合はその協定の度が弱くて、競争防止の目的がうまく達しられないやうな事が屢ある。それで企業者が合同して共同の販賣機關を設けたり、總生産額を協定して之を各企業者に割當てることなどが行はれる。かうなると個人は最早獨立性を失ひ、各企業者が打つて一丸とした企業となる之をトラストといひ企業の合同と譯す。主としてアメリカに行はれてゐる。

其の方法は種々な形式を採用する、即ち各會社の合併を行つたり、少數の有力者が他の會社の過半数の株式を所有して企業の實權を握り、思ふまゝを實行することなどもその例である。

三、右二者の長短

カルテルもトラストも、不當の競争を避けて需要と供給の調節を圖る利益はあるが、時として市

場を獨占し、我が儘に振舞つて原料生産者、商人、消費者等に迷惑を及ぼすことが往々ある之等は自己の企業が同同時に社會の企業であることを忘れたもので、産業道徳上許すべからざるものである。

副業に就いての注意

農業を多角的に經營することになるに、勢ひ副業を取入れるこいふ場合が多くなつて来る。それ
で之に關する注意を茲に附記して置く。

一、副業選擇上の注意

副業はその地方に於ける土地の事情や農業組織等によつて、その種類、方法を異にすべきである
こころは當然であつて、甲地に適當するものは必ず乙地に適當するかどうかは斷言出来ない。故に副業
選擇に當つては相當考慮を要するものであつて、輕々しくこれを取きめる譯にはいれない。今その
一般的の注意を參考迄に三四述べて置かう。

イ、本業に支障を來さぬ様な種類を選ぶこと。

副業は本業の補助的なものであるから、本業の餘暇を利用し得るもの、又は勞働主腦者の餘り手
を煩はさないで行ひ得る様なものを選ぶなくてはならない。しかも一家の勞力量の均衡する様なも
ので、之が爲に本業に支障を來さぬやうなものを選ぶなくてはならぬ。副業の爲に本業の播種期移
植期、その他の管理乃至收穫を遅延せしめる様なことになるに、却つて小利の爲に大利を忘れる様
な結果に陥る。

ロ、原料を容易に廉價に得られるものを選ぶこと。

副業に必要な原料が自家の本業から生まれるこいふもの、或は容易に廉價に得られるといふもの
而してその供給力も豊かであるといふ様な種類の副業を選ぶべきである。さうでなくては勞して効
が少いこいふ状態になるであらう。

ハ、小資本で行ひ得るものを選ぶこと

之は必ずしも小資本に限つた譯のものではないが、元來副業だから之に餘り資本を投ずるのは考
へものであるし、萬一失敗した場合でも損失が輕くて済む。副業の爲にその資本を他より借りるこ
いふやうな事は、多くの場合に於て好ましくない。

ニ、投機的なものは之を排すること

利益の多い副業程往々にして大不況に會ひ、時々不振に陥つたりするものである。且つ収入が意外に多いといふ事は自ら奢侈を誘ひ、更に本業を輕んずるやうな傾きを生じ、又之に大に力を入れる事から一旦不振に會ふと農家の經濟を破局に導く虞がある。一時的宣傳に乗つて流行的副業に眩惑し、又は眼前の利益に爲に投機的副業を選ばうやうなことは堅く慎まなくてはならない。凡そ世に行ふに易く然も常に有利な事業などいふものはあるべき筈がない。よし假にあつたとしても、多くの人がそれに飛びつくから結局生産過剰で割のあはれないものになつてしまふ。副業選擇に當つて大に戒めなければならぬ事である。

ホ、製品乃至生産品の販路が確實なものを選ぶこと

多少利益が少くても製品乃至生産品の販路が廣く、そして永久的であるといふやうなのを選ぶことが大切である。投機的なものは兎角此の販路が確實でない爲に二三年目には大失敗するといふ風に陥り易いものである。それよりも元々副業であるから利益が少くとも永久的生命のあるものを選んで方が安全である。

二、副業を行ふ上の心得

イ、本業収入の補足を目的とすべきこと

副業は直接の利益としては農閑勞力の利用經濟の圓滑をはかるといふやうな點にあるのであるが、収入は本業の補足と考へて、儲けるといふことは第二段に考へることである。世には副業で一攫巨利を博さうとして却つて大きな損失を得るものが極めて多い。かくの如きは農業の本道を外れるものといつてよい。例へば牛を飼ひ、綿羊を養ふのは堆肥を作るのを目的とし、牛乳は之によつて自家の榮養料、羊毛は自家の被服料を目的とし、餘つた分を賣つた収入は望外の利益と考へて行くやうな行き方がよいのである。

ロ、副業は組合によつて共同的に行ふのが良い。

副業の種類にもよるが、之を共同的に行つて有利な場合が多い。即ち原料の購入、生産品の販賣は元より、農産加工などでは共同によつて其の規模を大にして安全率を高め得るものが多い。その他共同によつて得る便宜は各方面に於て少くないものである。

ハ、副産物の利用を怠らぬこと

鶏を飼養して卵の外に糞糞を利用し、澱粉を製造して其の粕を利用するの類である。少しのものを無駄にしないといふ所が副業の精神でもあり、又農家経営上の根本でもある。

ニ、臨時の収入に心を許さぬこと

副業を行へば時々臨時の収入があつて、農家の金融を圓滑ならしめるものであるが、一利には一害が伴ひ易いもので、此の臨時の収入の爲め却つて奢侈安逸の風を生じ、却つて農家が疲弊した例も少くないのである。故にその収入の用途には確乎たる方針を定め、濫りに之を費すことの無いやうに心掛なければならぬ。さもないと折角の副業も却つて害になるのである。

三、副業實施上の改善點

副業は本道に於ても多少各地共に行はれてゐるのであるが、未だ發達しないものが多いのである。今その原因を調べて見るに、

(1) 各戸生産高が少いこと、(2) 之を集めても品質、形状が不整であること、(3) 生産期は年内の一時

期に限られてゐるから、商品として販賣上不利が多い。(4) 需給状態、市價の變動等に農家の注意が行き届かぬこと。(5) 一時の金融上賣急ぎの多いこと。(6) 技術に對する研究、改良を怠り時勢の進運に伴はないこと。(7) 折角或地方に發達しかゝつた加工業も、他の地方に競争者が現はれて廢滅する事等が重なるものである。

之に對してその普及及び發達を圖るには、次の如き諸點に留意するところが肝要である。

- 1、産業組合、實行組合同業組合又は各種の申合せによつて、成るべく共同經營を爲すこと。
- 2、農會等と連絡して種苗、補助原料の共同購入等を行ふこと。
- 3、品質統一製法の統整を圖るため、品質、荷造り等の検査を爲して等級を附し、商標を附し共同販賣をなすこと。

4、優良器具機械の共同購入、共同工場、共同作業場の設置を爲すこと。

5、信用組合、農業倉庫を利用して金融の道を講じ賣急ぎの弊を除くこと。

6、見本の送附、即賣會、宣傳會等によつて販路の開拓に努力すること。

尙注意すべきことは之等副業乃至農産加工が、漸次工業化して資本家の手に移りつゝあるといふ

一事である。現に菓子、屑糖整理、澱粉製造、味噌醬油の醸造等々、苟くも工業化し得るものは、總て農家の手を離れ、又は離れようとしつゝある。かゝる工業化せんとする副業は、須らく今後共同の組織經營に於て之を永久に農村に確保するやう努めなければならぬ。個々の生産は結局大量生産による大工業と市場に於て競争することは出来ない。故に共同によつて同一加工品を大量に生産し大口の注文にも應ずることが出来るやうにし、又種類によつては検査統一、共同出荷によつてその地方の特産として價値を市場に認めしめる様にし、その販路についても大に研究して直接消費地と取引を行ふ事なども肝要な事柄である。

多角的經營に成功せる人々の事例

一 凶作を尻目に朗かな多角式農業

薄荷の産地瀬戸瀬の精農

佐々木 名寄農檢支長所談

附近農家で最も裕福と見られる七、八戸の其の家屋の立派さと充實せる構へは、都市に於ける相當の住宅と比較して遜色がない此の部落で篤農家として知られてゐる武内與市氏の住宅の如きは實に堂々たる構へで、内部も中々充實してゐる。優麗な額なごも掛けてあつて、之が農家かと思へる程の明るさである。母屋と並んで、牛廄、納屋等調子よく建てられてゐて、武内氏が如何に内福な農業經營者であるか、うかがはれるのである。世間の不況を尻目にかけて、強きあゆみと朗かさを持つてゐるのには極めて愉快に感ずるところである。

氏は岐阜縣より二十二年前に渡道、文字通の奮闘努力、一路家業に精勵し、殊に農業經營に意を用ひて今日に至つたものである。附近農家がやゝもすれば投機的な薄荷單作に流るゝ農業に終始する危険から早くも脱して、多角式農業へと進み、現在では九町歩の全耕地を、家族三名（主婦及び子女二名）並びに働き手の傭男二人計五名で處理してゐる。

作物の主なるものとしては薄荷三町五反、燕麥二町五反を初めとして、甜菜、小麥、デントコーン、青豌豆、大手芒、大豆、小豆その他蔬菜、リンゴ、梨、ブドウ等殆ど網羅してゐるのみならず、家畜としては牛七頭、馬三頭、鶏二十羽、豚若干、その外池を利用して養鯉を行ふなど、全く理想的の多角式經營である。

而して農家の出費の最大である肥料の如きも、家畜の排泄物利用の堆肥約一万五千貫を製造し、又緑肥の使用にも意を用ひて之を節し、金肥としては少量の鯨粕、過燐酸石灰等に止めてゐる。

耕作法は附近農家が薄荷連作による收量減少に鑑み、五年更新を行ふため、毎年二割つゝ更新して相當の成績を挙げ、或は適期刈取によつて反當り收量の増加、又は蒸溜法の刷新による時間の短縮、能率増進、燃料の經濟等あらゆる點に氣を配り、或は家畜の飼料の自給、自家食料の自給等に

も心がけ、本年の生産は薄荷、牛乳、青豌豆その他で相當の高に上つてゐる。

殊に武内氏の特徴として見るべき牛乳、リンゴ、梨、ブドウ或は鯉等、榮養ある自家用生産品の豊富なことであつて、働いてゐる誰もが健康そのものゝ如く、はち切れる如き元氣と明るさで作業に當つてゐる。殊に二人の娘さんは甲斐々々しき装ひで、一生懸命にベツチの唐傘打を、汗にまみれ乍らやつてゐた。聞く所によるといづれも中等教育を終へてゐるこの事である。

相ついで襲ふた凶作にあへぎつゝ、將に飢餓線上に彷徨してゐる水田單作の姿も、かくも明朗に力強く希望に満てる農家と比べるときは、多角式農業の如何に根強きかを雄辯に物語るものであつて現在窮乏のきん底にある農業にも打開の道あることを深く教ふるものではあるまいか。

(小樽新聞所載)

二、洋菜を主とした多角農業

信州北穂高の一青年

勝野義憲君の經營法

長野縣南安、穂高町から糸魚川街道を北へ約半里穂高川を渡るこ、間もなく道の右側に、この邊

では一寸見受られない珍しい洋菜類の畑が並んでゐる。之は此の地方では珍しい洋菜を主とした多角形農業経営をしてゐる、北穂高村勝野義憲君の畑である。勝野君は大正十一年、更科農学校を卒業したまだ三十歳の青年で、此の方面へ手をつけた動機は、同君の父母兄弟がズット以前から米國へ渡つて彼方で農業に當つて居り、時々珍しい野菜種子を送つてくるのを栽培して見ると大變面白い成績が上る。そこへ農業恐慌の嵐がドツト押寄せたので、勝野君をして本格的な今の多角形経営のふんどしを締させたこの事である。

始めの中は促成野菜なごを主としてやつて居つたが、これは主たる得意先松本方面が名古屋などに押される關係上、洋菜類に目をつけ、この地方の天恵的な涼しい氣候を利用して、東京方面が暑くて洋菜類の育たぬ時期を狙つて生産を始めたといふ。そして試験の結果一昨年頃から順次大規模となり現在では約二千五百坪の畑に、チシヤナ、セルリー、西洋エンドウ、花ヤサイ等が一杯に栽培されてゐる。現在同君の經營する所の産業部門に動員されてゐる産業軍はザット次の通りである

- (1) 養蠶 ○春一四枚 ○夏六枚 ○秋一四枚
- (2) 養畜 ○馬一頭 ○豚大一二頭 小八頭 ○鶏二八羽 ○山羊一頭 ○蜜蜂三箱

- (3) 精米場 ○水車一臺 ○精米機一臺 ○もみすり機一臺 ○精麥機一臺 ○精粉機一臺
- 目のまはる様な忙しさの中で勝野君は語る。

『初めは何しろこんな先人未踏のやうな仕事だったので、随分失敗もありましたが、ヤット一昨年あたりから成績がズット上つて來ました。かうした涼しい土地なので、其の特異性を狙つて行けば、随分面白いと思ひます。昨年あたりは坪一圓五十錢から二圓位まで上りましたので、本年は栽培坪數を一躍して約倍程に増加しました。まだこの邊では暑さの厳しい時は暑氣でやられますので、本年乗鞍山麓の番所ヶ原の方へも土地を借りて試験的にやつて居ります。成績さへ好ければ、來年からは一部分だけ彼方へ移さうかとも思つて居ります。

多角形というても漫然とした方法でなく、矢張り土地、氣候關係や、將來の需要及び人手間の配分等始めに慎重に練つてやらぬと却つて失敗する場合があると思ひます。この西洋エンドウ等もいまだ内地では市場に出してゐるのは私の所だけ位のもので、大變面白い収益が上ります。又今の時期に收穫のある様に、チシヤナを栽培するのも面白いと思ひます。私の所なきも現に注文に應じ切れず、電報で催促を受ける始末です。金肥の節約は堆肥です。

ね。私も豚のお蔭で昨年なども約三百圓の金肥節約が出来て、僅に百五十圓の金肥を買つただけです』

即ち昭和七年度の收支計算は次の通りで、あの不況のどん底にも立派な収益を擧げてゐる。

收支計算

耕作面積八、一四〇坪（二町七段程）内自家所有七、四〇〇坪 借入地七四〇坪

収入 二、八二三圓

△稻作九一圓 △養蠶七二一圓 △わさび四五五圓 △野菜九〇圓 △桑園間作一八五圓

△養畜二九四圓 △果實七圓 精米場收入三八〇圓

支出 一、九三三圓

△勞賃二九五圓 △肥料一四二圓 △飼料一五四圓 △農具藥劑種苗二一〇圓 △蠶種及び蠶

具修繕六五圓 △租税公課二四八圓 △光熱費七三圓 △建物修繕費三〇圓 △精米場出費三

二圓 △小作料及びわさび排水費用五二圓 △負債利子二七三圓 △家計費三六〇圓

差引 残 高 八九〇圓也

三、快主義の徹底

福島縣石城郡草野村

高木誠一氏の多角經營

（帝國農會特選の一）

高木氏はその年行ふべき農業の經營を立案するに先立ち先づ

△農場地方に於ける氣候、雨雪量及び風位 △農場の位置及び地勢、地質、地味 △耕地集散の

狀況 △灌溉、排水 △交通 △災害

等を調査し次で家畜資本、農具資本、植物資本、勞力日數等を計算し、之によつて、計算を樹て、

一家總出動で之に従事する。

家族は主人四十七才、妻四十七才、長男二十四才、婦二十四才、女二十才、二男十三才、三男九

才、孫一才の八人で、各々の作業分擔は、

經營主設計、計畫、簿記、穀菽、養蜂

洋 販賣、會計、養蠶、農産加工

男 園藝、役牛、しひたけ

婦 花卉、養鶏

女 炊事、各助手

二三男 養 兔

こなつて居り、更に軍隊組織をこり入れ、常備軍(野菜、卵)、豫備軍(養蠶、農産加工)、後備軍(穀菽)、國民軍(山林植樹)に系統を立て、それらの收支を臨機應變にやりくりすることになつてゐる。

昭和八年度の收支豫算案は収入二千八百三十一圓十八錢で、その内譯は

- 耕種収入一六一八、一八(水稻六九八、一八その他穀菽類二八五野菜類五五○果樹五○花卉三五)
- 養蠶収入七〇
- 養畜収入八五八(養鶏四五八養蜂四〇養兔五牛三五〇)
- 農産加工収入一五〇
- 山林収入一三五

支出は九百三十圓十五錢で、その内譯は

- 建物費四〇
- 農具費三五
- 種苗費三〇
- 家畜代二五
- 蠶種代五
- 飼料費三八〇
- 肥料代一八五
- 光熱費一〇
- 藥劑費五
- 加工原料費三五
- 畜力費六〇
- 雇傭賃七〇
- 租税八八、一五
- 諸がかり二〇
- その他五

此の差引千九百一圓三錢となり、延べ労働人員八百三十一名、労働賃銀五十錢と見て四百十五圓五十錢で、此の労働賃銀を以て家計費にあてる。

高木氏が他の農業經營者に比し異色ある點は、家計費と農業費を区分してゐる事で、家計費の收入は前記四百十五圓五十錢の外に、財産収入十圓、兼業収入五十圓、勤勞収入二十圓、雑収入五圓を繰入れ、五百圓五十錢が見積られてゐる。支出は總て現金とし明細書を作製する。

- 住居費三〇
- 飲食費三五
- 被服費二二〇
- 光熱費二二
- 什器費一〇
- 修繕費一五
- 交際費五〇
- 税金二〇
- 諸係五
- 寄附五
- 娛樂化粧費一〇
- 醫藥衛生費一〇
- 嗜好費五
- 雜費一〇
- 冠婚葬祭費五〇

計四百二十二圓となり、一ヶ月三十五圓の割合で、八人家族が之以内の緊縮生活をする。同氏の多角型農業經營法の鐵則として

- 一、家族全員が自家の農業經營方針を理解し、主人の命に従ひ、各自の業務に勵む事
- 一、戸主が農業經營と技術に練達すること
- 一、市場及び消費者との聯絡を巧に圖り、商品化し難き農作物は最初より作らぬ方針を取る事
- 一、農業資本（肥料、飼料、農具類）はなるべく自給自足の方針をこり、現金支出の額を出来る限り少くする事

を主張し一家を擧げて快食、快眠、快便の三快主義の徹底を期し、明細な計畫を徹底した主義の信念で働いてゐるが、一番の悩みは物價の暴落であり、經濟的危険に襲はれんことを、多角型農業は一年中間断なく生産してゐる關係から、よく一部分に食ひ止めることが出来て僅少の損失で済む又一面に於て之を補填出来る場合もあるから、總収入に於ては影響がないとの事である。

（東京朝日新聞より）

四、市街地農家の例

松本市並木町の青森悅藏氏

（帝國農會特選の一例）

松本市並木町自作農青森悅藏氏の農家經營は自給經濟の建前による多角形にある爲め、農家經營經濟の優良事例としてこの程帝國農會から表彰された。

特に氏の經營に注目すべきは市街地農家としての運用適切を極めてゐる事で、數度とれる野菜類は之を毎年六月から十二月にかけて市農會で市の盛り場繩手に開く夜店で賣り、一夜平均（雨天等の爲平均二十日位）昭和六年には八圓、昭和七年には六圓をあげ、一面主力肥料は人糞を充て、朝飯前から市中から汲取る等、収入の多きを計つて支出を押へてゐる爲、茲數年の深刻な不況に遭ひ乍ら、斷然黒字を保持し、一般農家の疲弊窮迫に泣くに對し、氏の一家のみは農業を謳歌し朗かである。尙氏の本年（昭和八年）の經營計畫を記すと左の通りである。

○水田 九反七畝歩

種類—早種畿内早生、二十二、六十九、百五十七、關取もち

收支—收入八一八圓五〇錢（反當り五二圓）此の中五十俵二百五十圓五十錢販賣、支出は一六七圓三十錢、收支差引殘三五二圓二〇錢、勞働一九九日〇

○野菜(一) 根菜類 一反四畝歩

種類—長いも、午莠、にんじん

收支—收入三二五圓(反當一四七圓) 支出五七圓四八錢、差引殘一六七圓五十二錢、勞働八十四日

○野菜(二) 葉莖類その他第一期作物 四反四畝一五歩

種類—馬鈴薯、胡瓜、トマト、南瓜、越瓜、葱、里芋、春蒔結球白菜、甘藍、茄子、もろこし、

さくけ

收支—收入四百十圓(反當り一一〇圓八一錢) 支出九九圓五錢、差引殘三一〇九五錢、勞働日數百七十三日

○野菜(三) 第一期作物間作 一反五畝二五歩

種類—ホーレン草、紫蘇、結球白菜、甘藍、その他

收支—收入百二圓五十錢(反當六四圓)、支出一四圓、差引八八圓五〇錢、勞働日數二十九日

○野菜(四) 第二期作 三反三畝一〇歩

種類—葱、ホ、レン草、結球白菜、大根、

收支—收入三百十圓(反當り九三圓)、支出三九圓一九錢、差引殘二七三圓八一錢、勞働日數一七八日

七八日

○桑葉 八反歩

種類—鼠返し、小牧、改良鼠返し、福島大葉、十文字、魯桑、實生

收支—收入三百六十八圓六十二錢(反當り四六圓〇七錢) 支出八二圓一五錢、差引殘二八六圓四七錢、勞働九六日

○養蠶 春七五瓦 夏八四瓦 秋、晩秋各一三〇瓦

品種—支一〇五×歐一七、日一一〇×支一〇五、日一一〇×支一〇五

收支—收入七百七十圓五十六錢(貫三圓見込)、支出三三三圓八〇錢、差引殘四三六圓七六錢、勞働二九五日

○豚 二頭—一頭づゝ二回飼育

目的—飼料野菜類その他糞物で、堆肥を作ることを目的とする。

收支—収入六十三圓八十錢、支出五十八圓九十錢、差引残四圓九十錢、勞働四十八日

○農産加工 薬細工

種類—繩(太)六十錢、(細)四十錢、草履百束、草鞋十足、こも十五枚、マフシ千五百個、シシ

タハラ二十俵、棧俵二百個、作業一月から三月中旬迄(既に全部出来)

收支—収入三十五圓五十錢、支出四圓八十錢、差引残三十圓七十錢、勞働八十三日

○その他

種類—堆肥九百貫、刈草三百貫、人糞尿七千六貫、野草三百貫、牛糞(牛乳屋)契約糞と交換

千六百貫

收支—収入百三圓六十二錢、支出十八圓二十錢、差引残八十五圓四十三錢、勞働六十四日

以上を合計すると

収入二八一〇圓五〇錢(内販賣による収入二〇一四圓九三錢)

支出 九九〇圓七一錢(内現金支拂三四二圓七五錢)

純所得 一八一九圓八一錢(内現金収入一六七二圓二〇錢)

此の中から家計費一五一三圓八十錢を差引三〇九圓四〇錢が黒字となつてゐる。

而して右の勞働日数の合計は一二〇三日で内譯は悦藏氏二三八日、長男二七〇日、二男三一三日

長男妻二二〇日、悦藏氏妻一一二日、雇人が六一日となつてゐる。悦藏氏と長男は交々いふ。

此の計「晝は決して無理では無い。従来既に行つて來てゐるもので、右の他に自家用とする爲本

年度五十要する羽、明年度百羽、十年度百五十羽、と増して三年計畫で養鶏をも行ふ計畫がある

に農家經營は立場々々で異なる所もあらうが、大體に於て自給經濟をしつかり頭に置いてか、れば

行詰りや疲弊等の泣き言はいはすに行けると思ふ」云。

(東京朝日新聞より)

五、分立經濟の記帳

北海道十勝國茅室村

鈴 鹿 隆 平 氏

(帝國農會特選の一)

北海道から唯一人帝農の審査に入選した篤農家、十勝國河西郡茅室村字彌生の鈴鹿隆平氏は射倅

農業粗放農業で有名な十勝大平野の真中であつて、集約農業の進んだ内地でも一寸考へつかない卓
拔、妙味百パーセントの合理的農業経営法—分立経済による記帳式農業を實行して、驚嘆に價する
好成绩を収めてゐる。驚嘆といつても別段異つた秘法がある譯でなく、誰にも出来る記帳、さいつ
ても近年農會あたりが奨励してゐる帳簿は全然行き方を異にした方法で、簡にして要を得、帳面
つけのおくくう、を忘れさせるものがある。

分立経済といふのは、農家の經濟を三つ—資本部、食糧部、經營部に分け、各部獨立の會計とし
て支出に重きを置いた經營經理をなすもので、三部に分けたのは、農家經營の缺陷が總合關係にあ
り、一朝凶作や農産物の値下り、或は肥料の暴騰に逢ふと經營全般を脅かされる被害を一局部に止
めるにあり、又支出に重きを置くのは必要な支出はさうしても支出しなければならず、これだけの
収入を得る爲には全力を要し多くの農家は収入に重きを置く結果、當外れが多く經營の全般をブチ
壊してゐるのである。

資本、食糧、經營の三部は左の如く反別ニ作物を配當して、各部それ々の支出を償つて行く

(但し十勝地方の畑作を例にこる)

一、資本部 資本部には全耕地の二分の一即ち十町歩の時は五町歩を割當て之に主として大小豆
を作付し、その賣上を以て全耕地の年貢、肥料代を拂ふ。自作で年貢の必要が無い時は、借入金
支拂、及び年賦金を支拂ふ。餘つた時は賣上百分の五の備荒貯蓄をし尙餘りある時は負債の償還に
當て、若し其の必要な時は特別積立として事業の擴張、財産の造成もよからう。備荒積立を百分
の五としたのは、少くとも北海道の經驗では凶作が二十年に一回はあるから、二十年後には百分
百積立とする勘定である。又若し不足した時は積立金から支辨し、それも無い時は借入金を以てし
返済は次年度の収入を以てする。

二、食糧部 食糧部は全耕地の四分の一をあて、主として大小麥たうきび、そば、牧草等の禾穀
類を作付し、一部を自家用の人畜食糧飼料に供し、一部を販賣して米代その他飲食費、尙、納税諸
負擔に當てる。餘りがあれば収入見積り百分の五に相當する金品の備荒積立をなし。残りは豫備費
或は積立繰入れ、借金返済等自由とし、不足の場合は資本部と同様である。

三、經營部 經營部は食糧部同様全耕地の四分の一を用ひ、主として之に大小豆を作付し、その

賣上を以て年貢、納税肥料代及び飼料費を除いた農業經營の全部、それに飲食費を除いた家計費即ち日常の經常費を支拂ふ。餘りある時は百分の五の備荒積立をなし。尙餘りある時は豫備費、特別積立、負債償還、事業擴張費、財産造成等に用ひ、不足の場合は前と同様にする。

兎に角獨立計算ではあるが各部も金錢の融通は自由とする。反別の割當方法は輪作の關係も考慮してある。



鈴鹿氏は中農の自作で、耕地は十九町五段全部畑作で、地味中位、家族は主人(五〇才)、妻(四六)、長男(二七)、その妻(二三)、次男(二三)、長女(一二)の五人で、長女を除く四人働き、家畜は馬四頭、鶏四十羽常食は自給自足主義で、米きびと麥の混合である。

農法は耕種農業の一點張りであるが、家畜や果樹、養魚等ミ外角を多様にするばかりが多角經營でない。耕種農業そのものに於ては作物の種類を多種にすることも多角經營だとの主張を以て昨年(昭和八年)の凶作にも當り、右の分立經濟の威力によって殆んど無影響で切り抜けた。昨年(昭和七年)十一月中旬鈴鹿氏が世上の悲鳴を聞きつ、試みた決算は左の如くで、資本部の菜豆類及び

經營部の大豆は被害甚大であつたが、經營部の小豆は被害輕微で經營部の均衡を保つた上、資本部に餘力を融通し、食糧品の大小麥、そば類は無被害で食へぬ心配なきはなかつたといふ。

▽ 資本部——收入

- 雜穀(青豌豆、中長、長うづら、金時合計百九俵) 賣上八五〇圓
- 現物(手許に残つたもの、意) 八〇圓
- 借入金(組合より) 五〇圓
- 借入金(經營部より) 一三〇圓
- 合計 一一一〇圓

——支出

- 肥料代 三八〇圓
- 拂 二五〇圓
- 年賦拂 三〇〇圓
- 元金拂 七〇圓
- 出資金(組合) 三〇圓
- 現物 八〇圓
- 合計 一、一一〇圓

△ 食糧部——收入

- 雜穀(大小麥、えんばく、そば、稻黍、唐きび、馬鈴薯、亞麻一三七俵) 賣上二六〇圓
- 鶏卵肉賣上 六〇圓
- 現物 二二〇圓
- 合計 五四〇圓

——支出

- 飲食費 一八〇圓
- 納税 二二〇圓
- 諸雜費 二〇圓
- 現物 二三〇圓
- 合計 五四〇圓

△經營部——收入

○雜穀(大小豆、大納言) 七十八俵賣上六八〇圓 ○現物五〇圓 ○合計七三〇圓

——支出

○經營費四五〇圓 ○備荒積立三〇圓 ○豫備費七〇圓 ○貸金(資本部) 一三〇圓 ○現物五〇圓 ○合計七三〇圓

即ち以上の如く五十圓の借金は出来たが七十圓の元金拂をし、備荒積立、豫備費造成をして三百五十圓代の現物を残し得た。(之が凶作の結果なのである。) (東京朝日新聞より)

六、精力主義の小作農

こつくと百姓を樂しむ

信洲浦里の若者 水 出 君

農村自滅を叫んで政府及び議會に陳情運動を起し、遂には全國的センセイションをまき起した北

信不況對策會の地元にあつて、純益百五十一圓二十八錢を残した小作農がある。その當事者長野縣

小 縣郡浦里村浦、野水出正人君(二七)は母(五六)弟(二六)妹(二四)弟(一五)の五人暮しの純然たる小作農で、田五百坪、桑園二九八坪、畑三十坪の耕地面積を借受け農業に従事してゐる。同君の農業經營は全くの努力主義から成立つてゐるもので、現に稲作は村の平均二石六斗五升に對し、三石三斗六升を收穫、裏作には大麥を栽培してゐる。

養蠶は歐十七、日百五を三百瓦位、十五平均五貫匁宛を收穫、桑園間作には大、小豆大根、野菜類を栽培し、大豆は味噌、醬油等の自家用品の製造原畜とし、その他野菜類柿、梅、桃等の果實類も自農用の外は販賣してゐる。又藥細工と屑繭からの眞綿製造等にも従事し、寸暇も無い様に互に勵ましあつて働いてゐる。

飼育家畜は牛二頭、豚四頭、兎二匹である。肥料は金肥を僅に三十五圓購入したのみである。昨年度の肥料状況を見ると、糞糞四百貫、綠肥八百八十貫、木灰六十貫、厩肥六千八百三十貫の自給肥料主義といふ形である。同年(昭和七年)の收支計算を見るに

收入

○養蠶七百七圓二十七錢 ○畜産六十圓 ○果實七圓 ○勤勞二十九圓五十七錢 ○雜收入四十圓三十九錢 ○計八百五十二圓二十三錢

支出

○稻作用費三十四圓四二二二十九錢 ○養蠶同二圓九十一錢 ○家畜同百二十二圓九十二錢
○果樹蔬菜同二圓十五錢 ○家計品（納税を含む）三百十八圓四十八錢 ○計七百圓九十五錢
差引利益金百五十一圓二十八錢

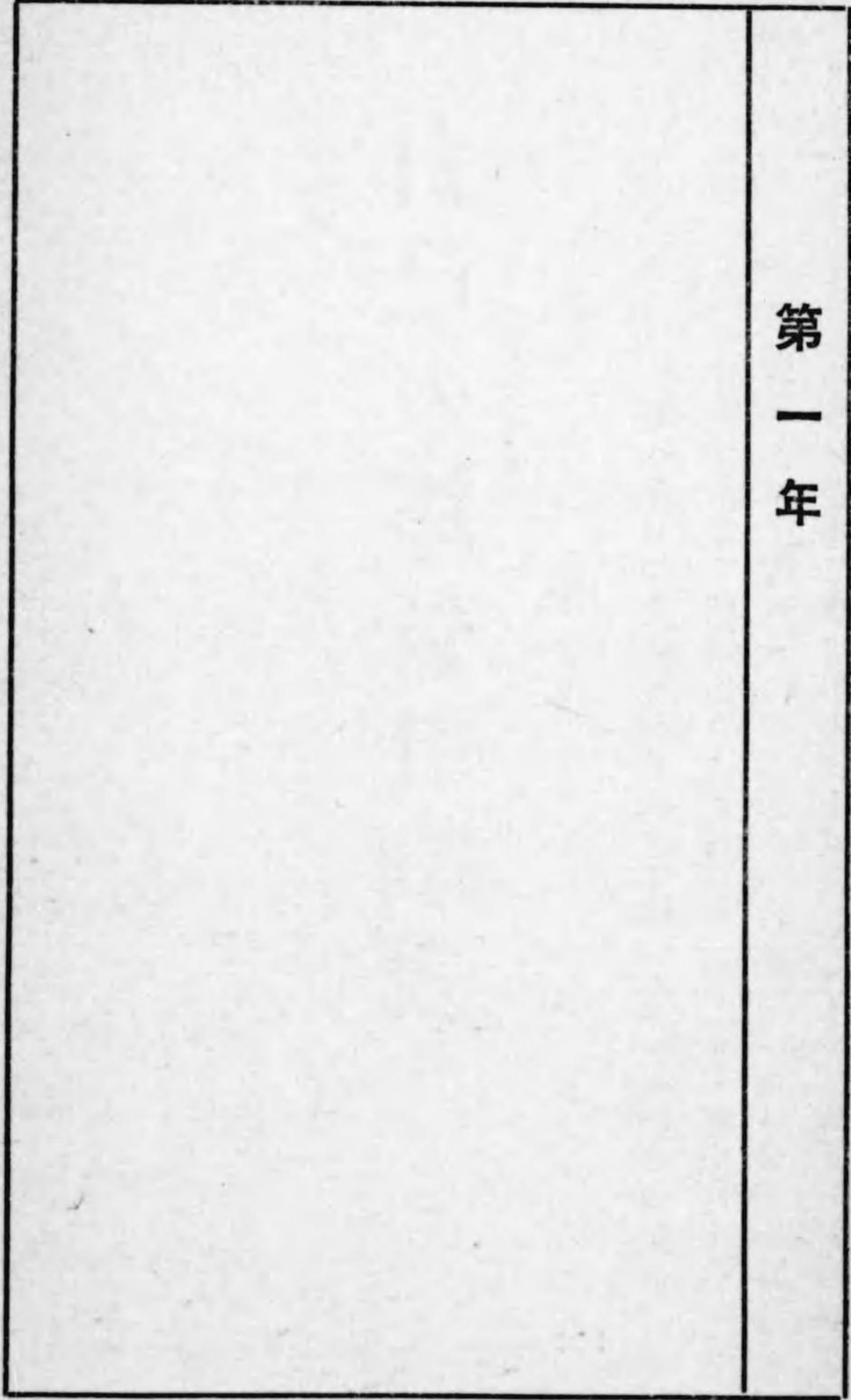
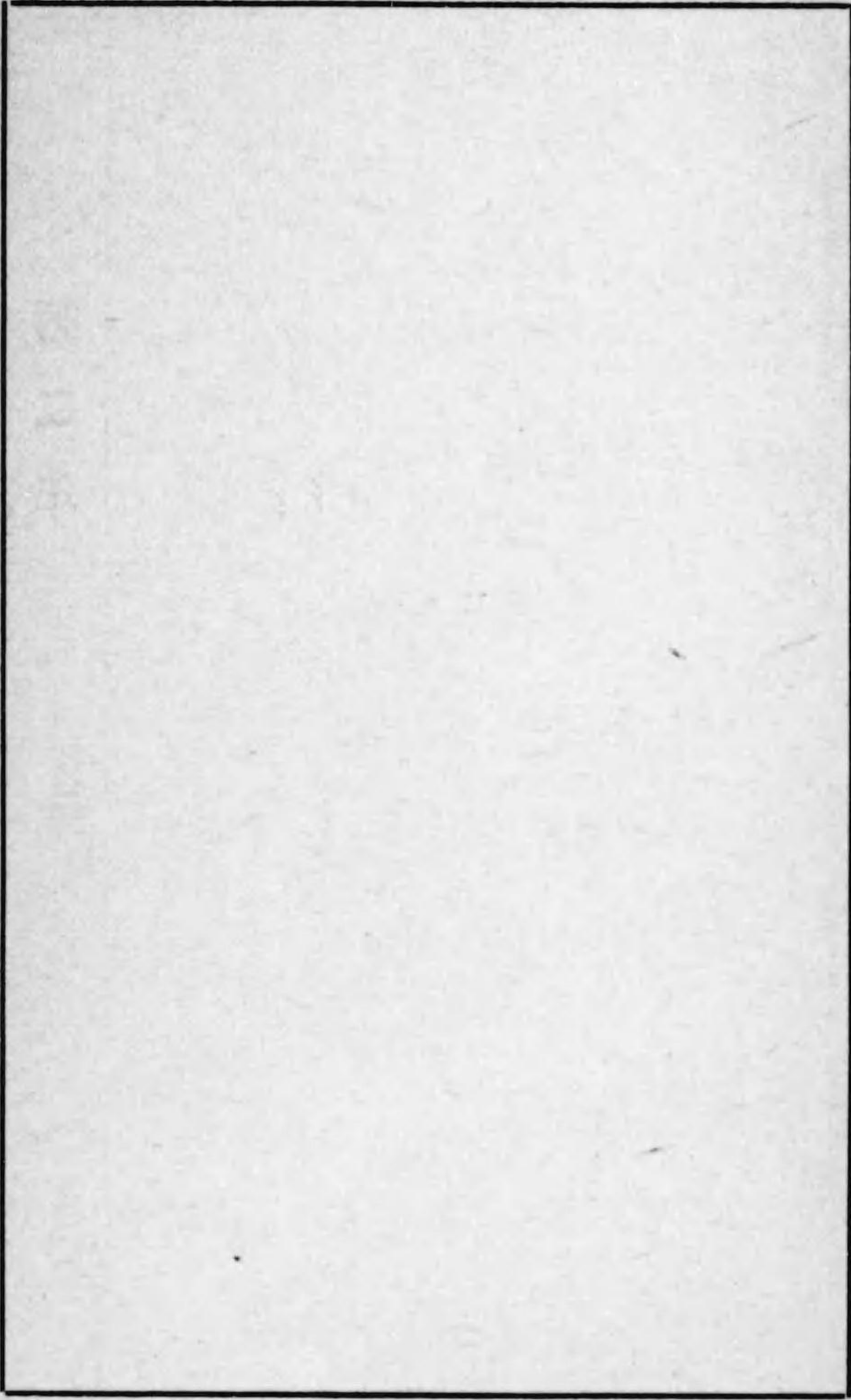
こいふ數字を示してゐる。同君は

『米は自家用と小作料に取られ残す分はありません。他から物を購入するやうな事はなく自給自足主義で過剰分は賣つてしまひます。百姓は面白い。愉快だといふ氣持ですればさんく働くことが出来ます。別に變つた經營でなく全く努力の二字のみです。』と謙遜して語つた。

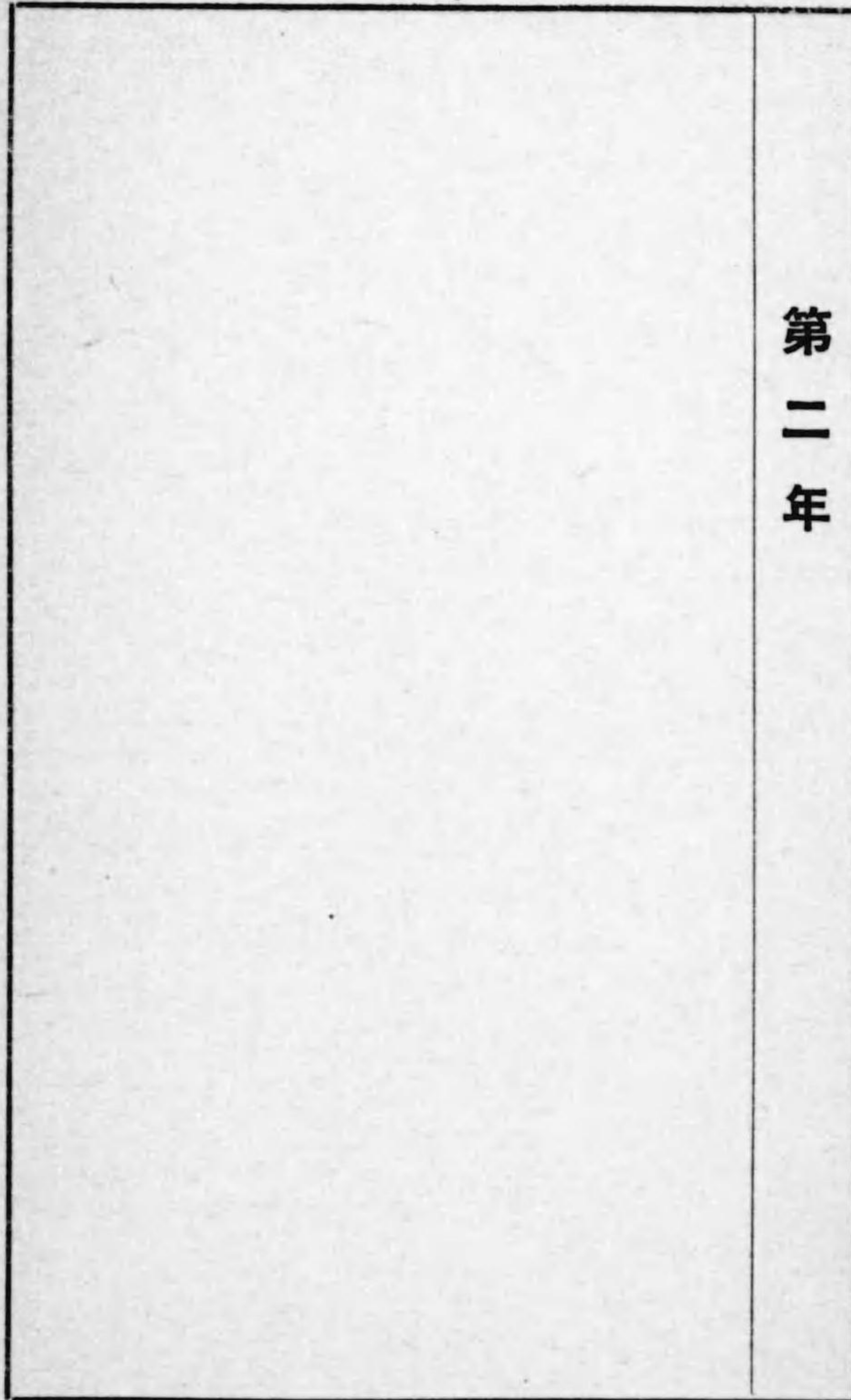
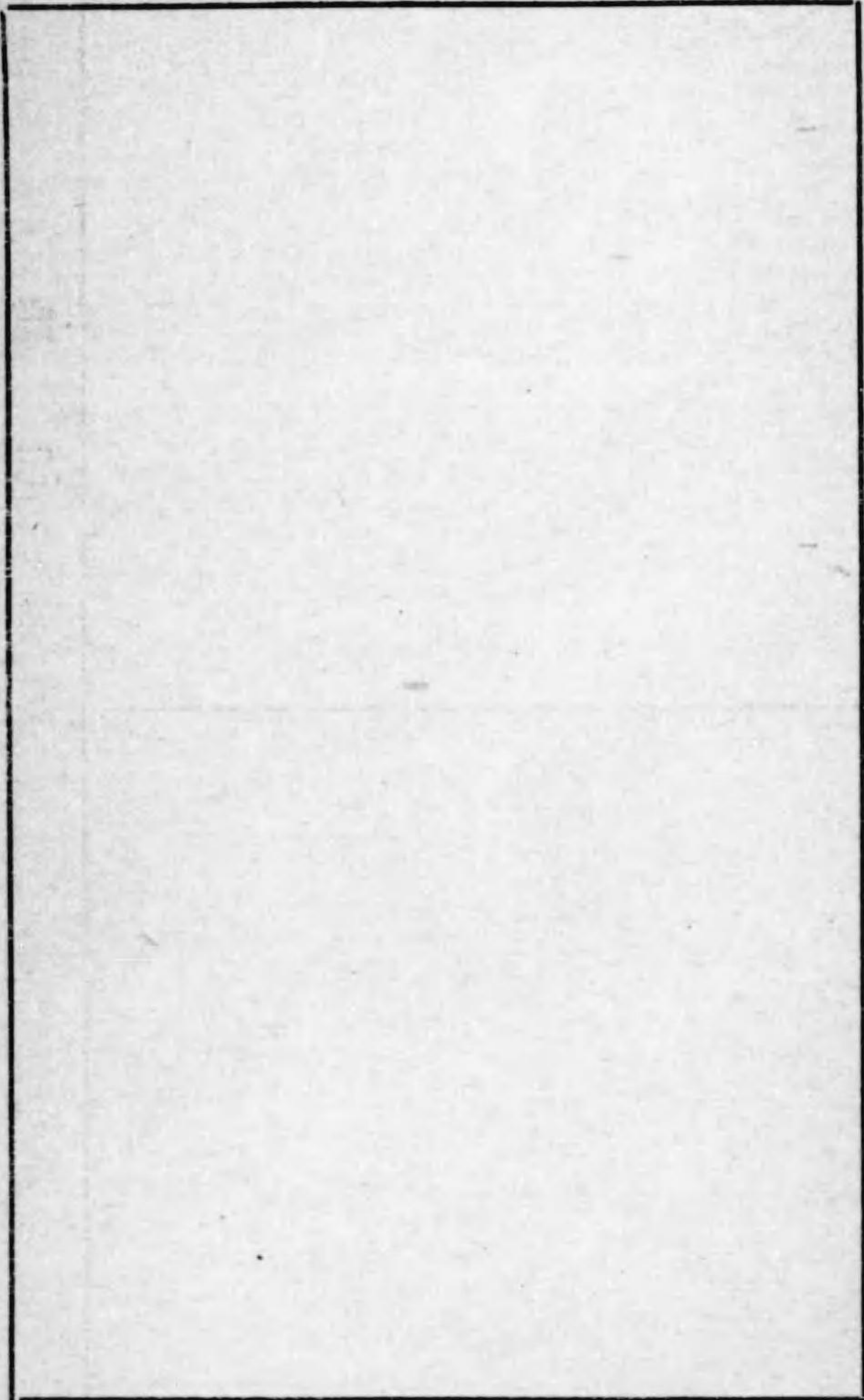
（東京朝日新聞より）

自己の經營計劃表

本書を讀了の後自分の來年度計劃を自分の耕地の廣さ作物、畜産、副業等々より考へ、よく案を練つた上次のページに書き入れること。一年實地に行ひ第二年目の案を定めて第二年のページに計劃する、以下同じ。

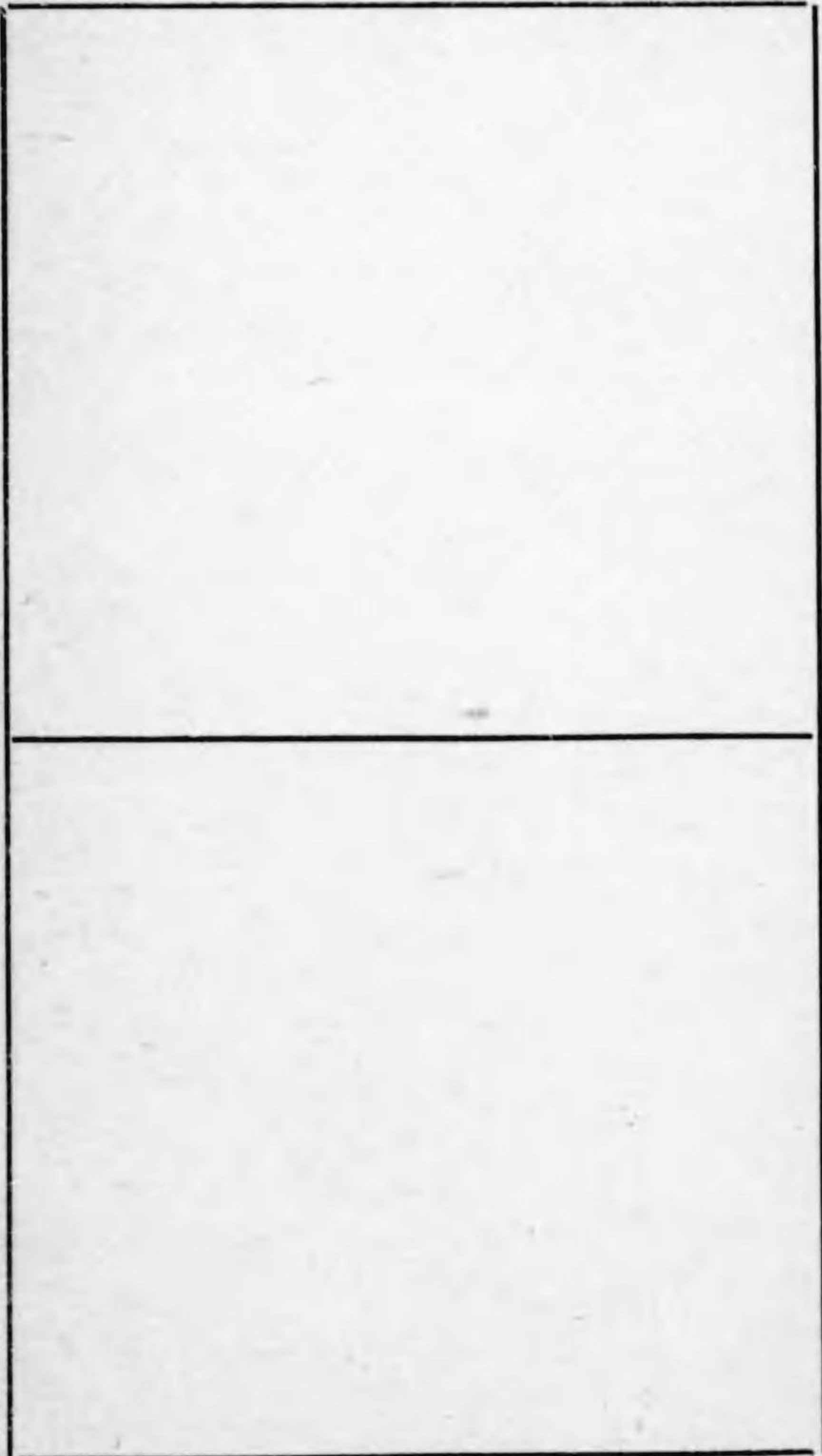


第一
年



第二年

備忘錄



昭和九年七月二十五日印刷
昭和九年八月一日發行

定價金參拾錢

著者 北海道農業教育研究會

札幌市外圓山五丁目

發行者 湯淺英五郎

札幌市外苗穂五〇番地

印刷者 田中幸司

發行所

札幌市外圓山五丁目
振替口座小樽七〇二三番

淳文書院

發賣所

札幌市南二條西十二丁目
振替口座小樽二二七〇七番

北海出版社

北海道農業教育研究會編

本道農家青年必携の好伴侶！

農事實行組合備付圖書として好評！

北海道 青年農業叢書

總フリカナ附 四六版九〇頁内外 各編共 金參拾錢 送料二錢

本叢書の特色

一、本叢書は現代の進歩した新しい農業、間に合ふ農業を研究して貰ふ爲に生れたのである
一、内容は現代指導者の權威に校訂を乞ひ、むつかしい理論を極めてやさしくこなしてある
一、説いてある事は一々本道の實情に基いて居

り、決して内地府縣の模倣でない。
一、必要な分だけ選んで買へる様に一事項一冊主義であるから經濟的である。
一、總振カナ附で誰でも讀める様にしてある
一、力めて農事試験場、種畜場、その他の試験成績を基として記述を進めてある。

第一編 馬鈴薯 金參拾錢

第二編 地力の維持増進 金參拾錢

第三編 綿羊と其の飼ひ方 金參拾錢

第四編 合理的な小麥の栽培法 金參拾錢

第五編 農業の多角的經營 金參拾錢

近刊豫告

第六編 堆肥と綠肥 第九編 北海道農家の副業(一)

第七編 農業の合理化 第十編 本道の甜菜

第八編 本道に適する 其の飼ひ方 第十一編 玉蜀黍

(以下續々刊行)

送料各金二錢

發行所

札幌市外圓山北中通五丁目
振替口座 小樽 七〇二二番

淳文書院

北海道農事試験場御指導
北海道農業教育研究會編

高等 農業實習帳

第一學年用
第二學年用
一組二冊送料共
金參拾四錢

立案・記帳・勘定

我が國農業界の先覺者である、山崎延吉氏は、『農業經營の最も大切な點は、どんなに面倒でも立案と記帳と勘定とを缺かさぬことである』と叫んで居られる。
今年はどういふ風に我が家の農業をやらうかと、綿密な設計を立てる。それに従つて毎月經營を進めその経過一切を記帳する。そして最後にその記帳に基いて勘定し、此の勘定を、記帳した一年の経過とを反省して、更に次の年の設計を立てるといふ風にやらなくては、何時迄たつても農業は間に合はないで暮す様になる。

本書は此の練習の爲に、高等科の生徒に用ひさせやうとして作つたものであるが、青年諸君の練習用として全く適してゐる。いきなり六つかしい帳簿にぶつかつたさて、自分ひとりで中々こなされぬ。
本書は各作物毎に選種法・播種期・播種法・畦幅・株間・播種量・基肥・追肥・中耕除草・收穫期諸注意等につき一々農事試験場の標準が示され之を參考として記帳式農業が出来る様に仕組んである。
本書を用ひて色々計劃し、是非記帳式農業をやつて見られることを切にお勧めする註文は今直ぐ振替で。

第一學年用目次

本書使用上の注意
栽培設計書
作業豫定表
大 根
馬 鈴 薯
大 麥 (裸麥)
小 麥
燕 麥
稻 (一) (移植)
稻 (二) (直播)
大 豆 (小豆)
菜 豆
結球白菜 (體菜)
胡 瓜

南 瓜
苺 荷
葡 萄
實習補充欄
各種試驗成績表
牛
馬
豚
家畜飼育日誌
作物の配當及輪作式の例
飼料可消化成分と澱粉價
農用藥劑の處方と適用
殺菌劑殺蟲劑混用適否圖
肥料成分表
肥料混合適否圖
農家中行事

第二學年用目次

備忘録
財産台帳
農具台帳
收穫物一覽表
出納録
收支決算表
略
第二學年用には茄・蕃茄・甘藍・玉葱・菜種・牛蒡・胡蘿蔔・豌豆・苹果・梨・葱・アスパラガス・玉蜀黍・西瓜・越瓜・蕎麥・亞麻・甜菜・除蟲菊・薄荷・鶏等が記載してある。

發行所

札幌市外圓山五丁目
振替口座小樽七〇二三番

淳文書院

北海道農事試験場編纂

會員を募る！

北 農

會費一箇年前納
金壹圓貳拾錢

- 一、本誌は北海道農事試験場の試験成績を發表す
- 一、本誌は毎月の農家行事に就て注意事項を記載す
- 一、本誌は北海道農事試験場関係者の研究を編輯す
- 一、本誌は農業各般の講座を設け毎月連續掲載す
- 一、本誌は會員の農事に關する質疑に應答す
- 一、本誌は其の他抄録、時報、雜録を掲げ參考に供す

申込所 札幌郡琴似村 北海道農事試験場内 北

農 會

振替小樽一二三八七番

終

